

令和5年度
事業報告書

川崎市総合教育センター

はじめに

令和6年度は、7月1日に市制100周年という歴史的に大きな節目を迎え、様々な催し物が開催される中、次の100周年に向けて新たな一歩を踏み出しました。また、これまで新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により様々な制限がかかっていた教育活動においては、感染症法上第5類への移行によりコロナ禍以前に戻り、様々な活動が再開されるようになってきました。

このような状況の中、川崎市総合教育センターでは、各学校が置かれている状況を鑑みながら、学習指導要領に基づいた教育課程の編成や指導等の実施を推進していけるよう、総務室を中心として、カリキュラムセンター、情報・視聴覚センター、特別支援教育センター、教育相談センターの5室が、調査・研究、研修、相談等、多岐にわたる事業に取り組んでまいりました。

本報告書は、本センターの一年間の事業内容の概要を次の8つの柱に沿って報告し、その内容を広く知っていただくとともに、次年度以降の業務改善に活かしていくものです。

- ① 組織・事務分掌：組織体系、各種会議、専門員、運営会議、予算等
- ② 研究：研究推進の基本的な考え、実践研究、調査・基礎研究、施策研究、研究報告会等
- ③ 教職員研修：川崎市教員育成指標に沿ったライフステージに応じた必修・希望研修等
- ④ カリキュラムセンター事業：学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動への指導・支援等
- ⑤ 情報・視聴覚センター事業：川崎市立学校における教育の情報推進計画等
- ⑥ 特別支援教育センター事業：第2期川崎市特別支援教育計画の実施、教育相談、就学相談等
- ⑦ 教育相談センター事業：教育相談、ゆうゆう広場、スクールカウンセラー派遣等
- ⑧ 広報及び刊行物：所報、要覧、研究紀要等

コロナ禍を乗り越えた令和6年度は、すべてがもとに戻るのではなく、必要なものは更に充実を図り、見直しが必要なものは違う形で運営するといった、新たな年の始まりでもあります。このような中、第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プランは第3期を迎え、これまでの教育の歩みを検証する時期となりました。同時に、令和8年度から施行される新たなかわさき教育プランの策定に向けた話し合いがなされる年にもなっております。世情とともに子どもたち一人一人の背景に目を向けながら、その実現と実施に向けた新しい研究と研修を要とした人材育成と学校支援ができるように、4センターがそれぞれの強みを生かすとともに、コラボレーションによるアイデアを出し合いながら、新しい組織・事業づくりに努めてまいりたいと考えております。

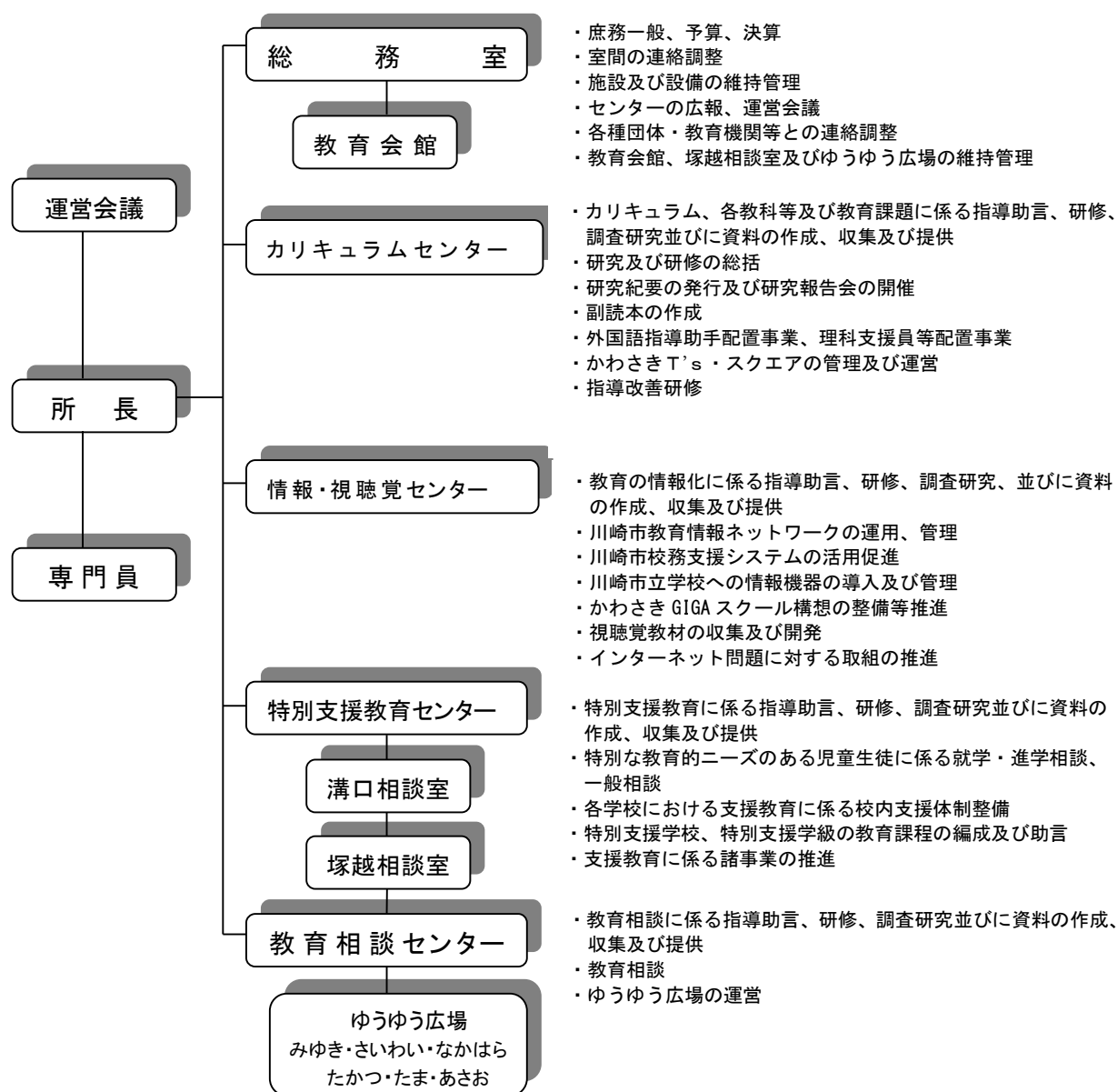
最後になりましたが、当センターの運営・事業展開に当たり、ご指導とご支援を賜りました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

川崎市総合教育センター
所長 大野 恵美

目 次

組織・事務分掌	1
所員一覧	2
運営会議委員・専門員・教育相談センター専門員	3
予 算	4
研究体系図	5
1 調査研究	6
2 教育関係教職員研修	15
3 カリキュラムセンター事業	22
4 情報・視聴覚センター事業	24
5 特別支援教育センター事業	31
6 教育相談センター事業	35
7 広報及び刊行物等	41

組織・事務分掌



会議

- 管理者会議(月2回)
センターの管理運営に係る重要事項について検討する。
- 専門職等会議(年間5回)
業務の円滑化を図るため、担当の枠を越え検討する。
- 学校支援連絡調整会議(年3回)
学校教育部、教育政策室、生涯学習部及びセンターの連絡調整並びに情報の共有化を図る。
- 所員会(年間1回)
所員が一堂に会し、センターの諸事項について共通理解を図る。

担当者会議(月1回)

- 研究推進担当者会議
研究の全体計画、教育基本調査の推進、研究会議の調整、推進
- 研修推進担当者会議
研修の全体計画、調整、推進
- 情報化推進担当者会議
情報教育に係る課題の調査及び研究の推進
図書資料の収集、提供についての計画、推進
- 広報担当者会議
『所報』の発行、『センター通信』等の広報活動の計画、推進

指導主事研修(年3回)

- 指導主事の役割についての共通理解や資質・能力の向上を図る。

令和5年度 川崎市総合教育センター 所員一覧

令和5年4月1日現在

No	所屬	職 名	氏 名	No	所屬	職 名	氏 名	No	所屬	職 名	氏 名
1	総務室	所 長	鈴木 克彦	53	情報・視聴覚センター	主任	山 森 大 史	110	教 育 相 談 セ ン ター	家庭訪問相談員	藤 原 靖
2		担当部長	宮 川 淳 子	54		事務職員	金 谷 学	111		家庭訪問相談員	松 野 まゆみ
3		室長	峰 岸 哲 也	55		指導主事	岸 本 孝 司	112		心理臨床相談員	八 巻 絢 子
4		課長補佐	小 島 光一郎	56		指導主事	福 山 創	113		心理臨床相談員	小 出 佳央理
5		係長	佐々木 一 晃	57		指導主事	新 田 瑞 江	114		心理臨床相談員	本 多 由 依
6		係長	大 寺 泰	58		指導主事	金 子 裕 輝	115		心理臨床相談員	早 坂 桃 花
7		主任	伊 藤 和 美	59		指導主事	佐 藤 拓 也	116		心理臨床相談員	長谷川 真 央
8		主任	武 田 健 人	60		指導主事	杉 本 昌 崇	117		心理臨床相談員	中 野 礼央奈
9		主任(再任用)	加 藤 勝	61		指導主事	石 橋 純一郎	118		心理臨床相談員	★小 林 芽 以
10		事務職員	澤 井 麻 侑	62		指導主事	今 麻由子	119		心理臨床相談員	★齊 藤 友里加
11	カリキュラムセンター	室長	宮 嶋 俊 哲	63	特別支援教育センター	指導主事	禿 信 成	120	教 育 相 談 セ ン ター	心理臨床相談員	★瀬 下 典 華
12		担当課長	鵜 木 朋 和	64		指導主事	岡 田 智 弘	121		心理臨床相談員	★角 田 梨 央
13		担当課長	石 塚 全	65		情報視聴覚教育相談員	横 田 不二夫	122		心理臨床相談員	★中 山 絵理香
14		指導主事	野 呂 公 人	66		情報視聴覚教育相談員	小 平 公 憲	123		心理臨床相談員	★吉 田 真奈美
15		指導主事	鈴木 正 博	67		インターネット問題相談員	掛 井 孝 明	124		学校巡回カウンセラー	★丸 田 あかね
16		指導主事	松 本 崇	68		インターネット問題相談員	岡 島 広 幸	125		学校巡回カウンセラー	★安 森 正 実
17		指導主事	吉 田 崇	69		インターネット問題相談員	高 橋 邦 夫	126		学校巡回カウンセラー	★小 出 由 佳
18		指導主事	伊 藤 由佳子	70		インターネット問題相談員	宮 津 健 一	127		学校巡回カウンセラー	★高 橋 采 花
19		指導主事	長 澤 秀 行	71		長期研究員	中 尾 有 希	128		学校巡回カウンセラー	★村 中 真由美
20		指導主事	門 口 知 弘	72	特別支援教育センター	室長	伊 藤 琢 也	129		学校巡回カウンセラー	★谷 川 てまり
21	ユニークセンター	指導主事	望 月 隆	73		指導主事	盛 光 秀 之	130	教 育 相 談 セ ン ター	学校巡回カウンセラー	★長 井 典 子
22		指導主事	川 城 晴 奈	74		指導主事	齋 藤 健太郎	131		学校巡回カウンセラー	中 井 恭 子
23		指導主事	大 崎 英 樹	75		指導主事	清 水 寿 紹	132		学校巡回カウンセラー	乾 の ぞ み
24		指導主事	大 窪 洋次郎	76		指導主事	松ヶ迫 香 織	133		学校巡回カウンセラー	矢 鳥 智 貴
25		指導主事	山 城 祥 二	77		指導主事	雨 宮 薫	134		学校巡回カウンセラー	楠 瀬 渚 紗
26		指導主事	岡 部 啓 子	78		指導主事	★中 澤 英 之	135		学校巡回カウンセラー	原 田 美 穂
27		指導主事	下 村 智 英	79		指導主事	★里 恵 子	136		学校巡回カウンセラー	新井田 朗子
28		指導主事	野 口 裕 子	80		特別支援教育教育相談員	村 越 淑 美	137		学校巡回カウンセラー	鴻 上 亮 子
29		指導主事	山 本 大	81		特別支援教育教育相談員	亀 田 亮 一	138		学校巡回カウンセラー	松 山 陽 平
30		指導主事	松 浦 信 明	82		就学相談専門員	★岸 幸 枝	139		学校巡回カウンセラー	小 松 果 歩
31	タレントセンター	T'sスクエア相談員	小 松 良 輔	83	教 育 相 談 セ ン ター	就学相談専門員	★古 賀 千 穂	140	タレントセンター	カウンセラー	S 尾 立 秋 彦
32		初任者研修相談員	高 木 充	84		就学相談専門員	★中 島 美 恵	141		カウンセラー	A 高 木 幸 江
33		指導力向上特別研修指導員	秋 本 和 子	85		就学相談専門員	中 川 夕起江	142		ゆうゆう広場相談員	M 滝 澤 真 一
34		指導力向上特別研修指導員	堀 米 達 也	86		心理臨床相談員	吉 井 寧 子	143		ゆうゆう広場相談員	M 樋 口 安 成
35		理科支援員等コーディネータ	日 原 みゆき	87		心理臨床相談員	谷 田 部 祥子	144		ゆうゆう広場相談員	M 明 瀬 忠 義
36		教師塾研修指導員	稲 毛 伸 幸	88		心理臨床相談員	光 本 恵	145		ゆうゆう広場相談員	M 村 越 由美子
37		長期研究員	石 川 友 則	89		心理臨床相談員	坂 本 理 恵	146		ゆうゆう広場相談員	S 吉 浜 慎 一
38		長期研究員	青 木 匡 信	90		心理臨床相談員	吉 野 真 由	147		ゆうゆう広場相談員	S 中 村 信 一
39		長期研究員	梅 澤 有美子	91		心理臨床相談員	櫻 井 悠 海	148		ゆうゆう広場相談員	S 國 武 信 行
40		長期研究員	中 川 靖 大	92		心理臨床相談員	吉 池 竜 哉	149		ゆうゆう広場相談員	S 富 永 美栄子
41	情報・視聴覚センター	担当部長	荒 木 孝 之	93	教 育 相 談 セ ン ター	心理臨床相談員	★福 嶺 夏 子	150	タレントセンター	ゆうゆう広場相談員	N 佐 川 恵 子
42		室長	椎 名 美由紀	94		心理臨床相談員	★奥 田 愛	151		ゆうゆう広場相談員	N 登 尾 日出男
43		担当課長	関 口 大 紀	95		心理臨床相談員	★佐 藤 桂 奈	152		ゆうゆう広場相談員	N 小 泉 智 則
44		担当課長	山 口 嘉 徳	96		心理臨床相談員	★我 妻 香 奈	153		ゆうゆう広場相談員	N 松 田 清 美
45		課長補佐	國 分 壘 彦	97		心理臨床相談員	★花 見 絵美子	154		ゆうゆう広場相談員	K 福 地 誠
46		課長補佐	中 瀬 英 明	98		心理臨床相談員	★平 光 茉奈美	155		ゆうゆう広場相談員	K 庄 司 律 子
47		係長	佐 藤 晃	99		心理臨床相談員	武 田 由 衣	156		ゆうゆう広場相談員	K 小 松 博 樹
48		係長	栗 須 正 則	100		長期研究員	高 木 玲 子	157		ゆうゆう広場相談員	K 縄 田 芳 信
49		主任	福 原 佑 子	101	教育相談センター	室長	松 田 典 英	158		ゆうゆう広場相談員	T 財 田 信 之
50		事務職員	堀 内 友里加	102		指導主事	★海 川 可奈子	159	タレントセンター	ゆうゆう広場相談員	T 荒 井 伸 一
51		事務職員	齊 田 義 孝	103		指導主事	★小 林 正 史	160		ゆうゆう広場相談員	T 和 田 和 子
52		事務職員	永 森 有 貴	104		指導主事	山 口 潤 也	161		ゆうゆう広場相談員	T 舟 本 正 子
				105		指導主事	荒 谷 健 一	162		ゆうゆう広場相談員	A 伊 藤 聡 志
				106		塚越相談室電話相談員	★高 橋 規 夫	163		ゆうゆう広場相談員	A 黒 川 保 之
				107		塚越相談室電話相談員	★内 藤 ふみ子	164		ゆうゆう広場相談員	A 白 坂 雅紀子
				108		塚越相談室電話相談員	★綱 川 満 廣	165		ゆうゆう広場相談員	A 出雲路 清 隆
				109		塚越相談室電話相談員	★渡 邊 潔	166		カウンセラー研究員	加 藤 伸 吾

★＝塚越相談室

<ゆうゆう広場>

S＝さいわい T＝たま A＝あさお M＝みゆき N＝なかはら K＝たかつ

川崎市総合教育センター運営会議委員

氏 名	現 職	専門領域
浦 山 利 博	川崎市PTA連絡協議会会長	社会教育
小 松 郁 夫	京都大学特任教授	学校経営
有 元 典 文	横浜国立大学教授	学習環境
塚 田 庸 子	神奈川CST協会会長	理科教育
赤 堀 侃 司	東京工業大学名誉教授	情報教育
池 田 延 行	国士舘大学教授	保健体育
星 聡 伸	神奈川県警察本部 少年相談・保護センター副所長	児童生徒指導
竹 田 文 夫	元玉川大学教職大学院教授	学級・学校経営
関 戸 英 紀	東海大学教授	特別支援教育
落 合 隆	川崎市立小学校長会会長 川崎市立久地小学校長	小学校教育
森 島 烈	川崎市立中学校長会会長 川崎市立大師中学校長	中学校教育
山 口 尚 史	川崎市立高等学校長会会長 川崎市立高津高等学校長	高校教育
稲 葉 武	川崎市立特別支援学校長会会長 川崎市立田島支援学校長	特別支援教育
石 村 卓 也	川崎市教職員組合執行委員長	学校教育

◎委員長 ○副委員長

専門員

氏 名	現 職	専門領域
工 藤 文 三	浦和大学特任教授	教育課程
森 本 信 也	横浜国立大学名誉教授	教育評価
中 島 香 澄	東海大学教授	教育相談
高 木 展 郎	横浜国立大学名誉教授	学習評価
永 井 徹	東京都立大学特任教授	教育心理学
原 克 彦	目白大学教授	情報モラル教育
霜 田 浩 信	群馬大学教授	特別支援教育
田 中 信 市	東京国際大学大学院教授	臨床心理学
野 中 陽 一	横浜国立大学教授	教育の情報化
小 林 宏 己	早稲田大学教授	カリキュラム開発
佐 見 由紀子	東京学芸大学准教授	健康教育
両 角 達 男	横浜国立大学教授	算数・数学科教育
太 田 洋	東京家政大学教授	英語教育
岡 田 弘	東京聖栄大学教授	学級経営

教育相談センター専門員

氏 名	現 職	専門領域
古 莊 純 一	青山学院大学教授	小児精神医学
鶴 養 美 昭	日本女子大学名誉教授	臨床心理学

予 算

単位 千円

科 目 \ 年 度		令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
総合教育センター費		1,801,816	1,705,360	1,976,294
	教育調査研究費	19,076	21,429	21,897
	教職員等研修費	15,839	15,899	19,395
	教育相談費	109,932	101,889	96,016
	適応教室運営費	76,615	75,521	75,044
	教育情報ネットワーク事業費	534,032	539,164	569,712
	G I G A スクール構想推進事業費	370,670	339,102	356,970
	視聴覚教育費	2,437	2,437	1,686
	平和教育推進費	619	619	619
	外国語指導助手配置事業費	544,216	502,810	478,357
	海外帰国子女等関係費	－	－	－
	理科支援員等配置事業	17,062	17,084	16,294
	カリキュラムセンター事業費	327	327	327
	総合教育センター運営管理費	99,869	81,162	331,738
	教育会館運営管理費	11,122	7,917	8,239
総合教育センター費外		2,474,890	2,409,513	2,303,156
	学校教育活動支援事業費	620	523	385
	児童生徒・指導相談業務費	156,379	143,242	103,382
	教育課程・学習指導に関する事務	98,933	42,179	32,601
	情報化教育推進事業費	1,124,947	1,129,535	2,166,766
	G I G A スクール構想推進事業費	1,094,011	1,094,012	－
	人権教育推進事業費	－	22	22

川崎市総合教育センター 令和5年度 研究体系図 概略版

教育基本法 学校教育法
中央教育審議会 答申
「令和の日本型学校教育の構築を目指して（答申）」
小・中・特別支援学校学習指導要領
高等学校新学習指導要領
「育成を目指す資質・能力」の明確化
第3期教育振興基本計画

かわさき教育プラン
基本理念
夢や希望を抱いて
生きがいのある人生を送るための礎を築く
基本目標キーワード
「自主・自立」「共生・協働」

川崎市総合教育センターの研究

令和5年度 研究主題

自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成

実践研究

- 各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究
- 児童生徒の発達の支援に係る研究
 - ◎長期研究員と研究員による研究（6）
 - 外国語教育 ○「キャリア・パスポート」 ○学力分析
 - 高校教育 ○GIGA端末活用 ○支援教育
 - ◎指導主事と研究員による研究（6）
 - 社会 ○図画工作・美術 ○特別の教科道徳 ○総合的な学習の時間
 - 健康教育
 - ◎カウンセラー研究員による研究
- 市立学校との共同研究

共同研究

- 各研究所等との共同研究
 - ◎神奈川県教育研究所連盟
 - 研究大会での研究報告
 - 研究協議会1部会開催
 - ◎関東地区教育研究所連盟
 - ◎全国教育研究所連盟
 - ◎都道府県指定都市教育センター所長協議会
 - ◎全国特別支援教育センター協議会

施策研究

- 教育施策等に係る研究
 - ◎新川崎市学習状況調査の分析及び活用とスタディ・ログに係る研究
 - ◎かわさきGIGAスクール構想に係る研究
 - ◎習熟の程度に応じたきめ細かな指導に係る研究
 - ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
 - ◎各センター指導主事研究
 - カリキュラムセンター
 - 情報・視聴覚センター
 - 教育相談センター
 - 特別支援教育センター

1 総合教育センターにおける研究推進の基本的な考え方

総合教育センターでは設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っている。

現在の総合教育センターは、「研究・研修」の業務と、各教科等や教育課題等に係る各学校に対する指導業務を担っている。指導主事が学校等の要請に応じて学校を訪問し、授業研究や校内研修等において指導や支援に携わりながら、各学校の子どもたちの実態や授業における指導の状況等を直接把握している。

そこで、研究においては、本市の子どもたちや学校の実態等を踏まえたうえでの各教科等に係る指導方法の改善や教員の授業力の向上、子どもたちの発達の支援に係る研究等を実践研究の中心に据えて取り組んでいる（別紙「研究体系図」参照）。

◇実践研究

■各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究

■児童生徒の発達の支援に係る研究

○長期研究員と研究員による研究会議

外国語教育、「キャリア・パスポート」、学力分析、高校教育、GIGA端末活用、支援教育

○指導主事と研究員による研究会議

社会、図画工作・美術、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、健康教育

○カウンセラー研究員による研究

■市立学校との教育の情報化推進を目的とした研究

◇調査・基礎研究

■教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究

○指導主事研究 各センターの課題に応じた研究

◇施策研究

■教育施策等に係る研究

○新川崎市学習状況調査の分析及び活用とスタディ・ログに係る研究

○かわさき GIGA スクール構想に係る研究

○習熟の程度に応じたきめ細かな指導に係る研究

○全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

◇共同研究

■各研究所等との共同研究

○神奈川県教育研究所連盟

○関東地区教育研究所連盟

○全国教育研究所連盟

○都道府県指定都市教育センター所長協議会

○全国特別支援教育センター協議会

◇実践研究

長期研究員・研究員による研究会議

自分で選択して伝えるやり取りの言語活動をめざして
—気付きを促すTeacher Talkとその支援—

(外国語教育研究会議)

本研究会議では、やり取りの言語活動で、児童生徒が自分の気持ちや考えを伝えるために、教師が行う児童生徒の気付きを促す **Teacher Talk** とその支援について研究を行った。具体的には、インプットを充実させるための気付きを促す **Teacher Talk** の4つの要素と、インプットに戻るための3つの支援を見いだした。検証授業では、気付きを促す **Teacher Talk** を行うことで、自分の気持ちや考えを自分で選択し、ためらったり間違えたりしながら英語で伝えようとする姿につながることに、インプットに戻る支援を行うことで、既習表現へ意識を向けさせ、必要な表現に気付き、使おうとする姿につながるということが明らかになった。

<スタッフ> 梅澤 有美子(長期研究員) 石川 萌(研究員) 土方 祥平 (研究員)
松葉 和成(研究員)

自己理解を深める「キャリア・パスポート」の効果的な活用
—自分のよさや可能性を高めようとする姿をめざして—

(「キャリア・パスポート」
研究会議)

本研究会議では、「キャリア・パスポート」でこれまでの自分の活動を振り返ることで、これまでの取組を踏まえた目標を立て、自己開示と他者からのフィードバックから自分の取組を客観的に見つめ、自分のよさや可能性に気付き、そのよさや可能性をこれからの生活に生かそうとしていくのではないかと仮説を立て、検証を行った。研究を通して、「キャリア・パスポート」で振り返ることから始まる一連の活用が自己理解を深め、自分のよさや可能性をこれからの生活とつなげる姿が見られたと同時に、教科の学習や自分の将来にもつなげようとする事が明らかとなった。「キャリア・パスポート」で自分を振り返ることで、児童生徒は学年をまたいで自分のキャリア形成を考えられることが明確となった。

<スタッフ> 石川 友則(長期研究員) 伊東 有希(研究員) 本田 真人(研究員)
林 祐輔(研究員)

川崎市学習状況調査の結果活用に関する研究
—資質・能力の育成を目指した授業改善のための、調査結果活用モデルの開発—

(学力分析研究会議)

本研究会議では学校全体として資質・能力の育成を目指した継続的な授業実践に現調査を活用することを目的として、年間を通した調査結果の活用モデル(通年活用モデル)を開発し、その効果の検証を行った。具体的には、①意識調査の指標化、②指標を意識した通年での授業実践、③結果分析による授業改善策の立案、の3つを共通の取組とする実践を行った。検証の結果、学校全体として分析結果に基づく授業改善の取組が広まったこと、検証授業実施学年において児童生徒の意識・行動の変容が促進されたことが確認され、通年活用モデルの有効性が示された。

<スタッフ> 青木 匡信(長期研究員) 酒井 尚之(研究員) 田邊 諭(研究員)
野土谷 淳(研究員) 杉田 義之(研究員)

高等学校における、授業改善に向けたはじめの一步
—思考プロセスの可視化「あいだのいちまい」による形成的な評価の実践を通じて—
—学びを自己調整する子を育てる形成的アセスメントを軸業づくり—

(高校教育研究会議)

本研究会議では、現存する高校教育の課題の本質を「見取るべきものが変化したにも関わらず、それを見取るための変化ができていないこと」にあると考えた。見取るべきものを「思考プロセス」であると定義し、値踏みから支援、つまり形成的な評価が促進される授業改善を進めることで、この課題を乗り越えることを目指した。特に、等閑視されてきた実行可否の視点に着目し研究を行った。

生徒の思考プロセスを可視化する手立て「あいだのいちまい」の考案に至り、仮説生成型の継続的な実践によって、「生徒を見る・知る」「他教師の存在」「失敗体験」の3つが、授業改善に向けたはじめの一步のカギであることが分かった。さらに、授業を生徒に委ねることは、授業を生徒と共に楽しむゆとりをも生むものであった。生徒は、「思考プロセスを重視し、暗記や再生を主としない学校での学びには意欲的になれる」ことが実証された。

<スタッフ> 中川 靖大(長期研究員) 黒川 景(研究員) 柳下 祐樹(研究員)
渡邊 梢太(研究員)

GIGA端末を活用し自らの学習を調整する児童生徒の育成
—学習記録における課題設定や振り返りの共有を通して—

(GIGA 端末活用研究会議)

本研究会議では、ICT の強みを生かし、学習記録を GIGA 端末で記録し、児童生徒同士が共有できる環境を整えることによって、GIGA 端末を活用して自らの学習を調整する力を育成することにつながるのではないかと考え、検証を行った。検証の結果、小学校、中学校、高等学校いずれにおいても、児童生徒は GIGA 端末に蓄積した自分の学習記録を適宜見返すだけでなく、他者の学習記録を予見段階、遂行段階、省察段階の必要な場面で主体的に参照し、自らの学びをよりよくしようとしていた。GIGA 端末で学習記録を蓄積、共有することを通して、自らの学習を調整する力の育成に寄与することが示唆された。

<スタッフ> 中尾 有希(長期研究員) 宮崎 誠(研究員) 住吉 巧(研究員)
島貫 敬太(研究員)

子どもの実態に合った支援方法を立案できる対話をめざして
—行動とその前後の出来事の観察から—

(支援教育研究会議)

本研究会議では「行動前後の出来事に目を向けた観察に基づき、対話を重ねていくことが、実態に合った支援方法の立案につながる」と仮説を立て、検証を行った。その結果、行動観察をすることにより対話の機会が増え、対話により行動前後の情報を集めたり、行動の理由や支援方法を検討したりすることができ、対話の質が向上した。実態に合った支援方法の立案には行動の理由の解明が必要であることが分かった。また、個別の指導計画については、ターゲット行動を絞り込むフォームを用いて目標を設定することや、対話において見直した支援方法を記述することで、内容の充実につながると考えた。ケース会議については、観察により情報を集めておくことや、長時間かけて一回ではなく短時間で継続的に行うことが効果的であると考えた。

<スタッフ> 高木 玲子(長期研究員) 小林 佳子(研究員) 穂浪 俊江(研究員)
西村 霞(研究員)

指導主事と研究員による研究会議

主体的に問題・課題を解決し、社会に関わろうとする態度の育成
—子どもたち一人一人が単元の学習を見通し、振り返る学習過程・活動を通して—

(社会科指導主事と
研究員による研究会議)

本研究会議では、子どもたちが社会的事象から問題・課題を見だし、その問題・課題を主体的に調べ、考え、社会に関わろうとする態度を育成することが必要であると考え、「問い」「見通し」「振り返り」の視点から研究を行った。検証授業では、子どもたち一人一人が主体的に単元の学習問題・課題を設定し、その解決に向けて見通し、振り返る学習活動を積み重ねることで、地域の生産の仕事と自分たちの関わりを考えたり、我が国の歴史や政治の在り方と自分たちとのつながりを見いだしたりする姿がみられた。社会的事象を主体的に追究できる「問い」を設定し、その「問い」を解決する「見通し」をもって調べ考え、「振り返る」ことを通して、主体的に問題・課題を解決し、社会に関わろうとする態度の育成につながることが明らかになった。

＜スタッフ＞ 鈴木 正博（指導主事） 宇賀神 英（研究員） 柴田 基（研究員）
齋藤 岳（研究員） 田川 雄三（研究員）

自分らしい表現を目指して試行錯誤する子どもの育成
—お互いのよさを認め合う鑑賞と試して表現する活動を通して—

(図画工作・美術科指導主事
と研究員による研究会議)

本研究会議では、互いの表現を価値づけ合うことで、自分の表現を「自分らしい表現」として肯定的に捉えられることにつながる「お互いに認め合う鑑賞」と、試したり慣れたりする経験を活かして表現を深められることにつながる「試して表現する活動」を題材に位置付ければ、自分らしい表現を求めて試行錯誤するようになると考え、検証を行った。研究を通して、「お互いに認め合う鑑賞」では、気付かなかった自分の表現のよさに気付く姿がみられた。「試して表現する活動」では、見通しが持てるようになったことで自分の表現に向って試行錯誤するようになり、自分の表現に満足する姿が見られた。2つの手立てが、自分らしい表現を目指すことに効果があることが分かった。

＜スタッフ＞ 長澤 秀行（指導主事） 眞砂野 礼（研究員） 佐藤 祐実（研究員）
深谷 昂弘（研究員） 中村清太郎（研究員）

深い学びへとつなぐ、「道徳的価値」や「教材」への自我関与

(道徳科指導主事と研究員に
よる研究会議)

本研究会議では、本市教師へのアンケートから、「児童生徒が自我関与しにくい」などの理由から、苦手とする内容項目や教材があることが分かった。そこで、「自我関与」の捉え方を学習指導要領から読み解き、内容項目や教材の特徴から、自我関与のしにくさを「困難さの分析」として整理した。そこに授業の手立てを講じて深い学びにつながるように検証授業を行った。検証の結果から、「教材へのアプローチの仕方の工夫」「指導の要点と教材の特徴が一致する部分に焦点化」「道徳教育で考える」「複数教材を関連付け、学習履歴を活用」の4つの手立てが、道徳的価値を自我関与しながら考えていくことにつながることを分かった。また、自分の考えや友達の考えを視覚化することで学びが深まることも児童生徒の姿から捉えることができた。

＜スタッフ＞ 岡部 啓子（指導主事） 石原 正樹（研究員） 青木 奈美（研究員）
山口 唯（研究員） 西村 翔（研究員）

子どもが「～したい」という思いや願いをもって主体的に
探究活動に取り組む姿を目指した単元づくり
—動機付けと課題設定場面に着目して—

(総合的な学習の時間指導主事
と研究員による研究会議)

本研究会議では、中学校の総合的な学習の時間に焦点を当て、既存のカリキュラムを生かしながら、生徒が単元を通して目的意識をもった課題を設定し、自ら「～したい」という思いや願いをもって主体的に探究活動に取り組む姿を目指した単元づくりについて、動機付けと課題設定場面に着目して検証を行った。研究を通して、動機付けとして学習材との出会わせ方を工夫したり、課題設定場面において適切な教師の働きかけをしたりすることで、生徒が目的をもって課題を設定し、その解決に向かって連続的・発展的に探究のプロセスを進めていくことができることが分かった。また、単元づくりにおいては、教師が単元の見通しをもって単元を構成し、生徒の思いや思考の流れに合わせて、体験活動や外部講師との出会いを適切に単元に位置付けることで必要であることが明らかになった。

<スタッフ> 山城 祥二 (指導主事) 長澤 拓也 (研究員) 井上 卓 (研究員)
田中 彰真 (研究員) 平原 典幸 (研究員)

◇カウンセラー研究員による研究

多面的・多角的な生徒理解のための教育相談の一考察
—児童生徒指導ハンドブック 2023 を活用した教育相談活動の実践—

本研究では、生徒指導提要在改訂され、児童・生徒との関わり方も社会の変化に合わせた新しい知識や考え方、それを実践するスキルも持ち合わせる必要性を感じ、私たち教員が日常的な教育相談活動の中で実践できることを探り、生徒への関わり方を見直すことを目的として研究を進めた。目的の実現のために、「児童生徒指導ハンドブック 2023」を活用し、誰でも実践できる多面的・多角的な教育相談活動のアプローチを探った。この実践により、私たち教員の視野が広がり、新しい知識を身に付けられるだけでなく、今まで学んできたことが改めて意味づけされたり、主体的に物事を考えるきっかけにもなったりしたこと、ハンドブックの活用はとても意義のあるものであったと感じた。

<スタッフ> 加藤 伸吾 (カウンセラー研究員)

2 研究報告

(1) 川崎市総合教育センター 研究報告会【別紙1】

この研究報告会は、当センターの実践研究及び調査・基礎研究を報告し、研究協議、指導講評を通して研究の成果を市内の学校、社会教育機関に還元するものである。令和5年度は、分科会によるオンライン形式又は集合形式の選択による方法で開催した。長期研究員、指導主事と研究員による研究の11分科会と、横浜国立大学教職大学院派遣教諭による研究の1分科会で研究報告を行い、報告会参加者は615名と、各研究会議で熱気あふれる研究報告会となった。研究報告会後には、各研究会議の報告内容や資料を川崎市総合教育センターGIGAサイトに掲載し、先生方がGIGA端末で「都合の良いタイミングで、どの研究報告も、何度でも」報告内容を閲覧することを可能とした。

(2) その他の研究発表

- ・「令和5年度神奈川県教育研究所連盟 第70回教育研究発表大会」における発表【別紙2】

3 その他の研究事業

◇研究冊子等の作成

川崎市総合教育センター研究紀要 第 37 号（令和 5 年度版）

令和 5 年度に調査研究した内容の掲載

【別紙１】 川崎市総合教育センター研究報告会

研究報告会報告内容

【長期研究員(◎)と研究員(○)による研究】

研究会議名 報告分科会形式	研究主題	発表者	講 師
外国語 研究会議 集合形式	やり取りの言語活動の充実を目指して — 気づきを促す Teacher Talk の工夫 —	◎梅澤 有美子 ○石川 萌 ○土方 祥平 ○松葉 和成	玉川大学 文学部英語教育学科 教授 工藤 洋路 先生
「キャリア・パスポート」 研究会議 集合形式	自己理解を深める「キャリア・パスポート」の活用 — 自己のよさや可能性を高めようとする姿をめざして —	◎石川 友則 ○伊東 有希 ○本田 真人 ○林 裕輔	日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授 橋谷 由紀 先生
学力分析 研究会議 集合形式	川崎市学習状況調査の結果活用に関する研究 — 資質・能力の育成を目指した授業改善のための、調査結果活用モデルの開発 —	◎青木 匡信 ○酒井 尚之 ○田邊 諭 ○野土谷 淳 ○杉田 義之	日本女子大学 人間社会学部教育学科 教授 瀬尾 美紀子 先生
高校教育 研究会議 集合形式	主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に向けたはじめの一步 — 思考プロセスの可視化「あいだのいちまい」による形成的な評価の実践 —	◎中川 靖大 ○渡邊 梢太 ○黒川 景 ○柳下 祐樹	横浜国立大学 名誉教授 高木 展郎 先生
GIGA 端末活用 研究会議 集合形式	GIGA 端末を活用し、自らの学習を調整する児童生徒の育成 — 振り返りの場面におけるデータ共有を通して —	◎中尾 有希 ○宮崎 誠 ○住吉 巧 ○島貫 敬太	東京学芸大学 教育学部総合教育科学系 教授 高橋 純 先生
支援教育 研究会議 集合形式	行動の前後にも目を向けた行動観察と対話の実践 — 子どもの実態に合った支援方法の検討ができるチームを目指して —	◎高木 玲子 ○小林 佳子 ○穂浪 俊江 ○西村 霞	川村学園女子大学 文学部心理学科 教授 今井 正司 先生

【指導主事(◎)と研究員(○)による研究】

研究名	研究主題	発表者
健康教育研究会議 オンライン形式	不安や悩みを伝える大切さについて学ぶ授業づくり ～発達段階に応じたアプローチ～	◎野口 裕子 ○菅原 雅子 ○安田 幸 ○澤地 和奏 ○榎谷 彩
社会科研究会議 集合形式	主体的に問題・課題を解決し、社会に関わろうとする態度の育成 ～子どもたち一人一人が単元の学習を見通し、振り返る学習過程・活動を通して～	◎鈴木 正博 ○宇賀神 英 ○柴田 基 ○齋藤 岳 ○田川 雄三
図画工作・美術科研究会議 集合形式	自分らしい表現を目指して試行錯誤する子どもの育成 ～お互いのよさを認め合う鑑賞と試して表現する活動を通して～	◎長澤 秀行 ○眞砂野 礼 ○佐藤 祐実 ○深谷 昂弘 ○中村 清太朗
総合的な学習研究会議 オンライン形式	「子どもが『～したい』という思いや願いをもって、主体的に探究活動に取り組む姿を目指した単元づくり～動機付けと課題設定の在り方に着目して～」	◎山城 祥二 ○長澤 拓也 ○井上 卓 ○田中 彰真 ○平原 典幸
道徳研究会議 集合形式	深い学びへとつなぐ、「道徳的価値」や「教材」への自我関与	◎岡部 啓子 ○石原 正樹 ○青木 奈美 ○山口 唯 ○西村 翔

【横浜国大 教職大学院派遣教諭による報告】

研究名	研究主題	発表者	講師
横浜国立大学 教職大学院派遣教諭による 研究報告 オンライン形式 (Google Meet)	インクルーシブ・リーダーシップ行動の推進 ～A 中学校型 OJT を通して～ オンライン形式	令和5年度横浜国立大学教職大学院 派遣教諭 御幸中学校 船場 尚武	横浜国立大学大学院教育学 研究科高度教職実践専攻 (教職大学院) 教授 横浜国立大学教育学部附属 横浜小学校長 小松 典子 先生

【別紙２】 令和５年度 神奈川県教育研究所連盟 第 70 回 教育研究発表大会

- 1 主催 神奈川県教育研究所連盟
- 2 担当機関 神奈川県立総合教育センター 横須賀市教育研究所 逗子市教育研究相談センター
三浦市教育研究所 葉山町教育研究所
- 3 大会テーマ 「未来を拓く・創る・生きる」力を育む
- 4 期日 令和５年 10 月 31 日（火）
- 5 参加者 神奈川県教育研究所連盟加盟機関（25 機関、472 名）
- 6 会場 県立総合教育センター（善行庁舎）
- 7 日程 （１）受付 9:40～10:00
（２）全体会 10:00～11:50
開会行事
記念講演
演題「子どもの創造力を引き出すために」
講師 画家 中川 久 氏

（３）分科会（13 分科会 研究発表 39 本）
研究発表① 13:10～14:00
研究発表② 14:10～15:00
研究発表③ 15:10～16:00

8 分科会 川崎市発表者

NO	発表テーマ	発表者
第 1	1 人 1 台端末環境における情報モラルの育成 ～各教科等で端末を活用す場面を生かした授業を通して～	時任 秀仁
第 4	川崎市中学生における援助希求的態度の育成に向けて ～「ＳＯＳの出し方に関する教育」プログラム試案の取組を通して～	岸根 薫理
第 5	新川崎市学習状況調査の結果活用に関する研究 ～学校が育成を目指す資質・能力を育むための授業改善を通して～	中島 悠太郎
第 8	自己と仲間のよさや課題を見付け伝え合う体育学習 ～考えを共有する活動を通して～	白田 利江
第 12	自ら試行錯誤して学習する生徒の育成 ～高等学校数学科を中心に問題を工夫して～	荒井 貴文
第 13	文学的な文書を読む学習における自らの考えをつくり出す子の育成 ～「主体的に読むサイクル」を手立てとして～	寺尾 春菜

2 教育関係教職員研修

(1) 必修研修

集合型研修＝★ 双方向型オンライン研修＝◆ 単方向型オンライン研修＝◇ 単方向型研修＝●
中止だが資料の提供＝△ 中止＝▲

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
801	新規採用教員研修	山城	■川崎市の教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、教職全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。 (1)研修オリエンテーション・メンタルヘルス研修★ (2)児童・生徒指導、学級経営について・芹澤 成司★(総合教育センター元所長) (3)情報教育、情報機器の活用法、情報モラル・指導主事★(総合教育センター) (4)安全指導について 救急法の講義演習、心肺蘇生法・日本赤十字社★ (5)学習指導についての講義演習・指導主事(総合教育センター)★ (6)学習指導 理科指導における講義演習[小]教科別指導[中・高・特]・指導主事(総合教育センター)★ (7)人権 米倉竜司(教育政策室) ★ (8)特別支援教育の現状と理解について・指導主事(総合教育センター)★ (9)教育相談について (総合教育センター)★ (10)児童生徒指導、学級経営について・指導主事(各区教育担当)★ (11)(12)授業力向上 別研修 指導主事(総合教育センター)★ (13)(14)班別授業 ★ (15)児童生徒指導・学級経営について・指導主事 (総合教育センター)・教職員の不祥事防止(元警察官) (16)講話 研修報告 小田嶋 満(教育長)★ (17)～(19)[小・特]授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間のうち3回の授業参観と研究協議[中・高]示範授業参観 授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のうち1回の授業参観と研究協議・指導主事(総合教育センター)★	新規採用教員	勤務校外研修 年間19回 4/4～1/25	6,384
802	新規採用養護教諭研修	野口	■養護教諭の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校保健全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。 (1)保健管理について(救急処置・健康診断)・野口 裕子(総合教育センター指導主事)★ (2)保健教育について・保健組織活動について・野口 裕子・下村 智英(総合教育センター指導主事)★ (3)中学校における保健室経営・工藤 晶子(柿生中学校)★ (4)小学校における保健室経営・佐々木 智恵(殿町小学校)★ (5)学校保健計画と保健室経営案について・野口裕子(総合教育センター指導主事)★ (6)授業研究・野口裕子(総合教育センター指導主事)★	新規養護教諭	7/7 9/1 9/22 10/13 12/1 12/15	57
803	新規採用学校栄養職員研修	川城	■学校栄養職員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、学校給食全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。 (1)学校給食の概要とサービス・給食管理システムについて・杉山綾子(健康給食推進室)★ (2)給食試食会の進め方・杉山綾子(健康給食推進室)★ (3)食に関する指導Ⅰ(給食時間における指導等)・杉山綾子(健康給食推進室)・下村智英(総合教育センター指導主事)・川城晴奈(総合教育センターカリキュラムセンター指導主事)★ (4)食に関する指導Ⅱ(指導の実践にむけての工夫)・杉山綾子(健康給食推進室)★ (5)食に関する指導Ⅲ(指導の実践にむけての工夫)・杉山綾子(健康給食推進室)★ (6)食に関する指導Ⅳ(授業の実践・指導講評)・杉山綾子(健康給食推進室)・下村智英(総合教育センター指導主事)★ ※801新規採用教員研修の14回[1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 16]も受講	新規学校栄養職員	4/7 6/30 8/18 8/25 10/2 11/14	30
804	2年目教員研修	大窪	■授業づくり、学級経営、児童生徒指導の3つの視点で普段の教育活動を振り返り、自己の課題を見付け、課題解決に向けて具体的な手立てを考え、継続的に実践することができる力を身に付ける。 (1)・ガイダンス・事前資料のポイントの説明：道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動：指導主事(総合教育センター)・班別協議(1年目、2年目前半を振り返った成果と課題、授業研究会へ向けて、班の授業改善の視点の設定と授業づくり)★ (2)OJTの進捗具合の確認と支援◆ (3)班別授業研究→班別研修(指導案を基に協議)★	2年目教員(全校種)	6/13 8/1 1/29	781
805	3年目教員研修	下村	■教科の目標と内容の理解を深めるとともに、自己の課題を一層明確にして授業改善を図り授業力を高めるとともに、教員として学び続ける態度を身に付ける。 (1)ガイダンスと班別協議(2年目までの成果と課題、班の授業改善の視点の設定)★ (2)OJTの進捗具合の確認と支援◆ (3)班別授業研究(研究協議、ステージ2に向けた実践目標の設定)★	3年目(全校種)教職員	6/6 8/1 1/12	603
806	2校目異動者研修	鈴木	■新しい職場で求められる役割を考え、新たな視点での実践を通して中堅教員としての素地を培う。 (1)①動画配信＜勤務規律・不祥事防止(教職員人事課)・メンタルヘルス(給与厚生課)・人権尊重教育研修(講師：人権・共生教育 担当課長)＞ ◇ ②ガイダンス・班別研修(実践目標の設定) ◆ (2)学校の中核的な役割を果たす教員としての素地を養う ～OJTを含めて実践したことを基に班別協議を行い、目標を見直し、よりよい実践の見直しをもつ～ ★ (3)数年先を見通した取組を考える ～OJTを含めて実践したことを基に班別協議を行い、新たな視点を踏まえて数年先を見通した課題を考え、実践計画を立てる～ ★	2校目異動者(全校種)教職員	①5/1～ ②6/2 8/8 12/26	604
807	中堅教諭等資質向上研修	長澤	■川崎市の教員としての使命感を養うとともに、個々の豊かな実践力の向上を図る (1)開講式・研修ガイダンス・校内OJT①②・教職員勤務規律・メンタルヘルス・児童生徒指導◇ (2)授業研究①：指導主事(総合教育センター、高津市民館)★ (3)児童生徒指導研修①：区教育担当指導主事(総合教育センター、高津市民館)★ (4)課題研究①：指導主事(総合教育センター、高津市民館)★ (5)キャリア在り方生き方教育・特別支援教育・人権・多文化共生教育◇ (6)センター希望研修共催研修等の受講：指導主事等(総合教育センター等)★◆◇ (7)(8)異校種交流研修：各学校(各学校)★ (9)授業研究②：指導主事(総合教育センター、高津市民館)★ (10)教職員の不祥事防止：人事課講師(総合教育センター、高津市民館)★ (11)児童生徒指導研修②：区教育担当指導主事(総合教育センター、高津市民館)★ (12)課題研究②：指導主事(総合教育センター、高津市民館)★ (13)閉講式、優秀教員講演◇	中堅(全校種)	5/23～ 6/30 7/23～ 8/31 7/31 1/5 1/5～ 1/31	2,211

808	15年経験者研修	山本	■探究力をもって学び続け、実践的指導力の向上を図り、校内における中堅教員としての資質を養う。また、人権尊重教育・多文化共生教育についても研修を行う。 (1) 服務規律研修・市職員(教職員人事課)◇ 「今、ミドルリーダーにもとめられるものとは」・白井達夫(横浜国立大学)◇ (2) 校内OJTについて全体会で共有し、グループに分かれて協議し、グループごとの 共通課題を決定◆ (3) 「人権尊重教育・多文化共生教育」について・市職員(教育政策室)(総合教育センター)★ グループに分かれて、課題レポートについてのグループ協議(総合教育センター)★	全校種 教職員	5/1～5/25 5/31 12/25	507
809	新任総括教諭研修	門口	■学校経営補佐等、総括教諭の職務遂行に必要な資質・力量の向上を図る (1) 総括教諭の位置づけ(教職員人事課)、総括教諭のメンタルヘルス(給与厚生課)◇ これからの総括教諭に期待すること 堀井英之(百合丘小学校)、大津裕一(桁形中学校)★ (2) 企業派遣研修、働き方改革研修、企業研修 (3) 班別協議(事例討議)、全体協議(成果と課題の共有、研修のまとめ)★	新任総 括教諭	4/17～20 4/21 12/13	239
810	新任教頭研修	吉田	■新任教頭としての心得や必要となる実務について研修を行う。 (1) 講演「新任教頭に期待する」・市職員(総合教育センター)／実務研修「休暇制度について」・市職員(教職員人事課)／実務研修「勤務時間制度」・市職員(教職員企画課)／実務研修「職場にけるメンタルヘルスケア」・市職員(給与厚生課)／実務研修「特別支援教育サポート事業」及び「教育活動サポーター事業」・市職員(指導課)★ (2) 実務研修「学校のICT機器について、情報セキュリティ及び情報モラル教育、ID管理システム、かわさきGIGAスクール構想、GIGAアカウントと端末管理、かわさきGIGAスクール構想の校内推進について」・市職員(総合教育センター)／実務研修「人権・多文化共生教育の推進」・市職員(教育政策室)★ (3) グループ討議「分散会による班別討議」・市立学校長★	全校種 教頭	4/11 4/25 7/12	90
811	教頭研修	松浦	■教頭の職務遂行と学校運営にかかわる諸議題について具体的な事例をもとに研修し、管理職としての資質向上を図る。 (1) オンライン メンタルヘルス：(給与厚生課)、「キャリア在り方生き方教育～キャリアパスポートについて～」：(教育政策室)、「かわさきGIGAスクールにおける情報セキュリティ」：(情報・視聴覚センター「レジリエンス教育について」日本ポジティブ教育協会 足立啓美)◆ (2) 分散会ー1「法規演習」：市職員(教育委員会教職員人事課)★ (3) 分散会ー2「課題研修」：市立学校長(市立学校)★ (4) オンライン開催：「学校安全の取組の充実について」(健康教育課学校安全担当)、「人権尊重教育について」(教育政策室人権・多文化共生教育)、「これからの教育に求められるカリキュラム・マネジメント」：村川雅弘(甲南女子大学)◆	教頭 副校長	6/15 8/1 11/20 1/9	718
812	新任校長研修	野呂	■新任校長の学校全体の運営、管理や指導を伴う経営力に関する研修を行う。 (1) 講話 総合教育センター所長 「職場におけるメンタルヘルス」市職員(給与厚生課) ◇ (2) 講演「学校経営と校長の役割」 相沢宏明校長先生(元校長会長) 講話「校長の心得」市職員(職員部 担当部長) 実務研修「教職員の人事」他・市職員(教職員人事課)★ (3) 講演「人権オンブズパーソン制度について」・川崎市代表人権オンブズパーソン★ (4) 「GIGAスクール構想の推進と、情報管理・著作権」(総合教育センター情報・視聴覚センター指導主事) 班別討議：「学校運営の現状と課題」・市職員(学校教育部)★	新任校 長	4/17～21 4/24 7/26AM, PM	68
813	校長研修	松本	■校長の職務遂行と学校運営にかかわる諸課題についての最新の理論や実践等を学び、校長としての資質の向上を図る。 (1) ・双方向型オンライン研修◆(★中学校) 講話「教育長講話」 所長 開講の挨拶 学校教育部長 挨拶 事務連絡 教育政策室、支援教育課 ・単方向型オンライン・動画配信研修◇ 講演「学校マネジメントとリーダーシップ～人材育成と働き方・仕事の進め方改革の推進～」 東北大学大学院教育学研究科 教授 青木栄一 氏 (2) ・双方向型オンライン研修◆(★中学校) メンタルヘルスについて 給与厚生課健康推進室 人事異動方針について 教職員部 教職員課 事務連絡 情報・視聴覚センター ・単方向型オンライン・動画配信研修◇ 講演「不登校支援と未然防止」 東京学芸大学教職員大学院 名誉教授 小林正幸 氏 (3) ・双方向型オンライン研修◆ 講話「人権尊重教育と多文化共生教育の推進について」教育政策室 所長 開講の挨拶 事務連絡 カリキュラムセンター ・単方向型オンライン・動画配信研修◇ 講演「通常学級における特別支援教育～共通する対応から段階的対応へ～」 新潟大学大学院教育実践学研究科 教授 長沢正樹 氏	全校種 校長	6/26 8/28 1/16	522
814	小学校夏季体育実技講習会	門口	■各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。 (1) 鉄棒運動、ゴール型ハンドボール、表現リズム遊び★ (2) 多様な動きをつくる運動遊び、小型ハードル走、走り幅跳び★ 講師：市立小学校教員★	小学校 教諭・ 新規採 用6年 未満教 員	7/27 7/28	305
815	中学校夏季体育実技研修会	門口	■各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。 (1) 陸上競技、ダンス、柔道、バドミントン★ (2) 体づくり運動、サッカー、水泳、バスケットボール★ 講師：市立中学校教員	中学校 保健体 育科教 員	8/21 8/22	446
816	小学校新規採用教員水泳実技講習会	門口	■水泳指導における事故防止を含めた指導力の向上を図る。 講義「水泳学習の系統と安全指導」◇ 実技①「低学年の指導法」 実技②「中学年の指導法(もぐる・浮く運動)」 実技③「中学年の指導法(浮いて進む運動)」 実技④「高学年の指導法」(クロール、平泳ぎ、安全確保につながる運動)★ 講師：市立小学校教員	小学校 採用6 年未満 教員	6/5～6/16, 7/24	222
817	小学校音楽科実技研修	伊藤	■小学校教員の歌唱、器楽の基礎的な技能の向上と音楽科指導における指導力の向上を図る。 (1) 歌唱実技及び指導法◇ (2) 器楽実技及び指導法◇	小学校 新規採 用6年 未満教 員	7/22～動画配信	197

819	中学校理科初任者教員指導力向上研修	吉田	■中学校理科初任者を対象に観察・実験の実技研修や市内にある理科関連の施設での研修を実施し、早期に指導力の向上を図る。 (1)授業力向上①総合教育センター指導主事★ (2)授業力向上②総合教育センター指導主事★ (3)授業力向上③総合教育センター指導主事★ (4)観察実験研修「多摩川がさがさ探検」平間小学校校長 佐川 昌広 氏 ★ (5)臨地研修「川崎の先端科学技術」★ 講演「知好楽でいこう」川崎市科学教育アドバザー・東京理科大学榮譽教授 藤嶋 昭氏 講義「科学への興味を高めるために」KISTEC材料解析グループ研究員 濱田 健吾氏 見学「光触媒ミュージアム」「電子顕微鏡」KISTEC太陽電池評価グループ統括専門研究員 齋藤 英純氏★ (6)臨地研修★ 実技研修「おもしろ玉手箱」かわさき宙と緑の科学館 指導主事、職員、アトム工房	中学校 初任者 理科	7/25 7/26 10/26	35
820	新任教務主任研修	野呂	■学校教育全般を企画・運営・評価する教務主任の資質・能力の育成のために、講義・演習等により校務遂行に資する研修を行う。 (1) 説明「公簿類の取扱」連絡・鈴木正博(総合教育センター指導主事)◇ 講話「新任教務主任への期待」・(川崎市立中学校長)◆ 演習「新任教務主任としての現状と課題」◆ (2)演習「教育法規の運用と解釈」・(教育委員会教職員人事課担当課長)◇ 演習「情報セキュリティ・モラル」・金子裕輝(総合教育センター指導主事)◇ 講話と質疑応答「教務主任の実務」(2年目川崎市立小・中学校教務主任)★ (3)説明「校務支援システム・学校HP・GIGAスクール構想の実現等」 福山創、禎信成、杉本昌崇(総合教育センター指導主事)◇ (4)グループ演習「学校組織マネジメント」★ 講師：白井達夫(横浜国立大学非常勤講師)	新任教 務主任	4/26(1) 6/19(2) 7/5～19(3) 11/24(4)	102
821	養護教諭研修	野口	■養護教諭が専門職として自らの技術の向上に努め、適切な対応を行える力量を高める。 (1)「心肺蘇生法実技」・木島淨文他(日本赤十字社神奈川県支部)★ (地区ごとに2回に分けて実施) (2)「現代的健康課題に対応するための養護教諭の専門性を生かした健康相談・保健教育」・鎌塚 優子(静岡大学 副学長)★	養護教 諭	5/23 5/30 8/30	413
822	学校プール安全衛生・蘇生法研修	野口	■学校プールにおける水泳指導前に、安全衛生に関する知識についての研修を深め、水泳指導計画に活かす。また、日常の学校事故の緊急時に適切な処置を行うことができるよう、心肺蘇生法の実技研修を通して技術の向上を図る。 「学校水泳プールの衛生管理について」・福嶋仁(川崎市立学校薬剤師) 「学校水泳プールの安全管理について」・里美 亜紀子(健康教育課指導主事) 「学校プール安全衛生・蘇生法研修」・門口 知弘(総合教育センター指導主事) 心肺蘇生法・木島淨文他(日本赤十字社神奈川県支部)★	全校種 教職員	6/5	173
823	中学校外国語教育指導力向上研修	大窪	■これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。 (1)学習者用デジタル教科書の活用事例に関する研修◆ (2)授業研究会★	中学校 英語科 教員	7/26 11/29	101
824	高等学校外国語教育指導力向上研修	大窪	■これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。 (1)高等学校における言語活動や学習評価に関する研修★ (2)授業研究会★	高校 英語科 教員	6/21 11/29	11
826	小学校外国語教育推進担当者(CET)	大崎	■学習指導要領を踏まえ、各校の外国語教育を推進するために必要な知識を身に付ける。 (1)(2)CETの役割・学習指導要領における小学校外国語教育について・CAN-DOリストの活用・デジタル教材の活用◆ (3)(4)英語演習(模擬授業・パフォーマンステスト) 講師：外国人講師(ALT)★ (5)小中連携会議・ALT配置日程調整会議◆	CET 各校1 名	5/30(1) 6/2(2) 11/20(3) 11/21(4) 3/5(5)	328
827	市内中学校理科主任研修会	吉田	■理科授業における安全指導及び新学習指導要領の趣旨を踏まえた理科学習指導の周知を図ること等について研修する。また、子どもたちの理科への興味・関心を高めるために、教師自身が学び続けることの大切さや伝えるための工夫について学び、理科の授業力向上につなげる。 (1)校種別研修(小学校)★及び(2)校種別研修(中・高・特)★ ・安全指導 ・理科室の不要廃棄薬品、薬品管理簿等について(総合教育センター指導主事) ・放射線教育・環境教育(太陽光パネル含む)について(総合教育センター指導主事) ・学習指導要領について〔学習指導要領のポイント、学習評価、小学校プログラミング教材等〕(総合教育センター指導主事) ・理科におけるかわさきGIGAスクール構想(総合教育センター指導主事) ・全国学力・学習状況調査結果及び大学共通テストについて(総合教育センター指導主事)	小中高 ろう学 校教員	11/22 3/18	166
828	小・中学校合同道德教育研修	岡部	■講演会、授業公開を実施し道德教育や道德科に対する理解を深め小・中学校の連携を深める。(共催研修) (1)全体会(小・中学校の授業づくりについて、道德教育について)◆ (2)授業研究会(小、中学校の授業を視聴し、研究協議をする)★	小・中 学校教 員	8/25 11/1 11/15 11/29 1/27	495
829	道德教育推進教師研修	岡部	■各学校の道德教育を推進していくために必要な知識や連携の在り方について研修する。 (1)「学校教育のカリキュラム・マネジメント」講演◆ (2)研究会議 研究報告、情報交換(各校の取組について)★	小・中 学校教 員	6/20 2/15	323
830	キャリア在り方生き方教育・進路指導研修	下村	■児童生徒が将来の生き方について主体的に考え、選択できる能力や態度を育むキャリア教育・進路指導の推進を目指し、その担当者としての資質・能力の向上を図る。 (1)キャリア在り方生き方教育の推進について 情報交換(各校のキャリア・パスポートの活用について) (2)実践報告 全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会の報告 向丘中 キャリア在り方生き方教育の推進について (3)実践報告 令和5年度キャリア在り方生き方教育推進校 東小倉小・付属中 キャリア在り方生き方教育の推進について グループ協議	小・中 ・高校 教職員	4/28 9/4 1/26	537
831	特別支援学級等新担任者研修	盛光	■文部科学省で定められた必修研修で、特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導についての基礎的事項の理解を中心に資質の向上を図る。 (1)「特別支援学級担任の基本」(特別支援教育センター指導主事盛光秀之)★ (2)「障害種に応じた指導の在り方」(群馬大学 霜田浩信教授)◆ (3)「特別な教育課程とサポートノートについて」(特別支援教育センター指導主事松ヶ迫香織)◆ (4)「特別支援学級の経営について」(川崎市立小杉小学校 前田三枝総括教諭)◆ (5)「自立活動について」(特別支援教育センター指導主事雨宮薫)◆ (6)「保護者との連携について」(特別支援教育センター指導主事盛光秀之)◆	特別支 援学級 等の新 担任者	5/1 5/23 5/30 6/20 7/5 7/14	709
832	特別支援学級等新担任者2年目研修	雨宮	■川崎市特別支援教育推進計画に基づき教員の専門性の向上を目的とした研修 (1)「かわさきGIGAスクール構想ステップ2に向けて」(特別支援教育センター雨宮薫指導主事)◆ (2)班別研修レポート発表(特別支援教育センター指導主事)★	小・中・ 特別支 援学級 等2年 目の担 任	5/19 11/10	127
833	特別支援学校2年目研修	清水	■特別支援学校教員の専門性の向上を目的とした研修 (1)「特別支援教育における教科指導とICTの活用」(特別支援教育センター雨宮薫指導主事)◆ (2)学校別研修 情報交換★ (3)グループ別研修 ICT活用の授業実践の紹介・協議★ (4)学校別別研修 ICT活用の授業実践の紹介・協議★	特別支 援学校 採用枠 の2年 目の教 員等	11/13 11/28, 12/11 1/15, 1/22 2/20, 3/1	65

834	通級指導教室新担任者等研修	齋藤	■障害のある子どもの見方、指導計画、具体的指導、関わり方についての研修 (1)「通級指導教室の指導について」 齋藤健太郎(総合教育センター)◆ (2)「言語の指導」◆ (3)「情緒の指導」◆ (4)「きこえの指導」◆ (5)「思春期の特性・中学校通級の指導」◆ (6)「事例に基づく協議及び指導助言」★	通級指導教室を初めて担任する教員等	4/17 5/17 5/24 6/19 7/10 8/29	115
836	支援教育コーディネーター研修	海川/ 中澤	【小学校】 ■校内の支援教育を推進する支援教育コーディネーターとしての役割に必要な知識や技能を習得する。 (1)「コーディネーターの役割・発達学習障害の理解」(教育相談センター指導主事)★ (2)「アセスメントの理解」(特別支援教育センター指導主事)★ (3)「チーム支援のためのケース会議の理解と実際」(東海大学教授 芳川玲子先生)★ (4)「個別指導計画の作成ワークショップ」(特別支援教育センター指導主事)★ (5)「教員のためのカウンセリング基礎」(日本女子大学教授 川崎直樹先生)★ (6)「不登校児童生徒への理解と援助」(東海大学 中島香澄先生)★ (7)「心理の視点を活かした児童理解」(教育相談センター指導主事)★ 【中学校、高等学校、特別支援学校】 ■校内、地域における特別支援教育を推進していく役割に必要な資質、技能を養う。 (1)「コーディネーターの役割・発達障害の理解」(特別支援教育センター指導主事)◆ (2)「思春期と発達障害」(群馬大学教育学部教授 霜田浩信)◆ (3)「アセスメントの理解」(特別支援教育センター指導主事)★ (4)「個別指導計画の作成ワークショップ」(特別支援教育センター指導主事)★ (5)「教員のためのカウンセリング基礎」(日本女子大学教授 川崎直樹)★ (6)「不登校児童生徒への理解と援助」(東海大学 中島香澄先生)★	初めてのコーディネーター ※小は希望により2年目以降のコーディネーターも参加可	【小】5/12, 7/3, 8/2, 8/25, 9/13, 10/24, 1/30 【中・高・特】 5/16, 6/13, 7/3, 8/25, 9/13, 10/24	小： 325 中： 106
837	新任栄養教諭	川城	■栄養教諭として専門と経験を活かしながら、職務に対しての理解を深め、校務遂行に必要な力を高める。 (1)「栄養教諭としての連携の在り方」 杉山綾子(健康給食推進室指導主事)★ (2)「栄養教諭としての役割」 三輪 安子(川崎市立大蔵中学校 総括栄養教諭)★	新任栄養教諭	5/22 10/16	10
839	GIGAスクール構想研修(GSL研修)	今	■G S L (G I G A スクール構想リーダー)を対象に、「かわさきG I G A スクール構想ステップ3」の理解や、校内での役割や推進計画の作成などを行う。 (1)かわさきGIGAスクール構想ステップ3とは、情報交換★ (2)伝達研修、区ごとの情報交換◆ (3)伝達講習、推進校取組報告、情報交換◆	小・中・特別支援学校・高等学校GSL	4/24・25 8/28・30 1/17・19	543
840	情報教育担当者研修	福山	■GIGAスクール構想、学校ウェブサイト、ICT整備、校務用コンピュータ等についてアカウント管理や情報モラル、整備予定やセキュリティの伝達を情報教育学校担当教諭に対して行う。(講師：情報・視聴覚センター 指導主事) (1)コンピュータ等の保守、校務支援システム、情報モラル教育、GIGA端末、学校ウェブサイト★ (2)校務用端末管理、校務支援システム、情報セキュリティ・情報モラル教育、GIGAスクール構想、著作物の適切な利用★ (3)GIGAスクール構想、校務用端末、情報セキュリティ・情報モラル教育、学校ウェブサイト◆	全校種教職員 情報教育学校担当教諭	5/8 10/13 1/29	537
841	学校ウェブサイト担当者研修	福山	■学校ウェブサイト担当者を対象に、担当者の役割や学校ウェブサイトの運用方法、コンテンツマネジメントシステム(CMS)の使用方法について学ぶ。(講師：情報・視聴覚センター 指導主事)★	全校種教職員 情報教育学校担当教諭	5/30	180

(2) ICT活用

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
101	GIGAスクール構想研修	今	■GIGAスクール構想の中で導入された端末の使い方を習得し、授業や校務で実践的な活用方法について学ぶ研修 (1) デジタル教科書活用研修◆ (2) 新任GSL研修◆ (3) GIGA端末持ち帰り情報モラル◆ (4) 管理者向け組織マネジメントとGIGA端末操作研修 講師：Google認定講師★ (5) 基礎からのミライシード操作研修 講師：(株)ベネッセコーポレーション 風岡賢吾★ (6) 基礎からのChromebook操作研修★ (7) 新たなGoogleアプリ研修★ (8) 基礎からのiPad操作研修★ (9) ミライシードを活用研修 講師：(株)ベネッセコーポレーション 風岡賢吾★ (10) Kickstart Programアドバンス研修 講師：Google認定講師◆ (11) StuDX Style～教育DXに向けて～ 講師：文部科学省初等中等教育局GIGA StuDX推進チーム★ (12) 授業を見て学ぶ「子どもが主語の端末活用」講師：信州大学教育学部准教授 佐藤和紀★ (13) データ活用研修★ (14) プログラミング基礎研修 講師：NEC通信システム株式会社社員★ (15) Google認定教育者資格レベル1 講師：Google認定講師◆ (16) Google認定教育者資格レベル2 講師：Google認定講師◆ (17) Kickstart Programコア研修 講師：Google認定講師★ (18) 学び続ける力と問題解決★◆ (19) かわさきGIGAスクール構想ステップ3授業実践紹介★ (20) MEXCBT・OPE活用研修◆	全校種教職員	5/30 6/2 6/6 6/8 6/12 6/16 6/19 6/23 7/24 7/31 8/1 8/3 8/4 8/18 8/21 10/12	558
102	情報セキュリティ及び情報モラル教育	金子	■情報セキュリティの重要性の理解とともに、情報社会での生き抜く子どもたちを育てる授業方法を習得し、学校全体で取り組む企画力、実践力を身につける研修(横浜国立大学教職大学院連携研修) (1)情報セキュリティ及び情報モラル教育 講師：指導主事・山本 光(横浜国立大学)◆	全校種教職員	8/31	5
103	小学校情報教育研究会との共催研修	福山	■かわさきG I G A スクール構想で整備されたICT環境での授業づくりについて考え、研修で習得したことについて各学校で生かすための研修。 (1)(2)ICT活用の実践報告及び実践交流を通して、各校で効果的なICT活用を取り入れた授業やかわさきGIGAスクール構想実現へ向けて支援を行う。★ ※(1)午前開催、(2)午後開催 ※参加人数は延べ人数	全校種教職員	7/26	170

(3) 授業力向上研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
201	国語科教育	野呂	■国語教育の動向を踏まえながら、学習指導について、講義や研究報告、実践発表、演習等を通して研修することにより、授業者としての資質の向上を図る。(共催研修) (1)学びの主体を子どもにおいた授業づくり 講師：中村和弘(東京学芸大学教授)★ (2)授業づくり演習 講師：小学校常任委員/中学校教諭★	全校種 教職員	7/26 AM・PM	80
202	社会科教育	鈴木	■新学習指導要領の理念を生かした社会科学習の在り方を、講義や実践提案、演習を通して研修し、授業者としての資質向上を図る。 (1)授業改善研修会 中学校研究部会常任委員(中学校向け) ★ (2)小学校授業づくり研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け・共催研修)★ (3)県内臨地研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け・共催研修)▲	全校種 教職員	6/9 7/26 7/27	372
203	算数・数学科教育	松本	■児童生徒の学習意欲を高める授業のあり方についての研修を通して授業者としての資質の向上を図る。 (1)算数・数学科の授業改善★ (2)小学校算数科授業づくりの基本 山崎浩二教授(日本大学文理学部教授)★ (3)中学校数学科授業づくりの基本 両角達男教授(横浜国立大学 教授)★	全校種 教職員	7/12 7/24AM 7/25PM	34
204	理科教育	吉田	■授業研究や児童・生徒役として受ける研修、科学館や生田緑地での臨地研修を通して、子どもたちが主体的・対話的に学ぶためにはどのような手立てが必要なのか。子どもの学びを視点とした導入・展開の工夫、単元を貫く課題や学習問題の設定の仕方、子どもの表現の引き出し方・見とり方、GIGA端末の活用などについて考え、授業力を向上させる。 (1)「授業で理科を語り合おう小・中学校合同授業研究-」(共催研修)市立小学校理科教諭▲ (2)「電気の利用(小学校プログラミング教育)」総合教育センター指導主事★ (3)「小学校理科における安全指導と薬品管理」総合教育センター指導主事★ (4)「GIGA端末の活用と授業力向上のための研修」総合教育センター指導主事★ (5)「子ども達の資質・能力を育むための授業改善の手立て」国士舘大学文学部 教授 小野瀬倫也氏★ (6)「地層・天体観測研修」(共催研修)小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館職員★	全校種 教職員	7/26 7/27 7/28	58
205	生活科教育	山城	■「いのち」について見つめ、考える機会をつくることのできる動物愛護センターの「いのちMIRAI教室」を体験する。体験を生かした生活科の単元や授業づくりについて研修する。★	小学校、特別支援学校教職員	7/24	3
206	音楽科教育	伊藤	■今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善の具体的な方策を実技、講義を通して研修し、授業力の向上をめざす。 (1)小学校音楽科共催研修 「管楽器・器楽指導」講師：音楽教育推進協議会★ (2)ミュージアム共催研修 「音楽科の学びを深めるための研修」講師：マイケルスペンサー (3)中学校音楽科共催研修 ★ 講師：中学校音楽教科教科調査官 河合紳和	(1)小教員 (2)全校種 (3)中教員	7/27 8/9 1/31	146
207	図画工作・美術科教育	長澤	■図画工作・美術科教育における今日的な課題や問題点を広い視野から把握し、自己の授業改善への具体的な手だてを研修する。 (1)図画工作科指導力向上のための研修 (小学校図画工作科研究会共催研修)★ 実技研修を行う 講師：図画工作科研究会常任委員 (2)図画工作科・美術科指導力向上のための研修★ 題材を設定して評価の計画を立て、指導と評価の一体化を図る研修 講師：指導主事	全校種 教職員	7/26 7/27	79
208	体育・保健体育科教育	門口	■講演や実技研修を通して、体育・保健体育科教員の資質の向上を図る。 (1)「学習指導要領に基づく指導と評価」(共催研修)講師：高田彬成(帝京大学教授) ★ (2)「器械運動」の指導法(共催研修) 講師：市内中学校教諭2名 ★ (3)「空手道」の指導法(共催研修) 講師：川崎市空手道連盟 ★	全校種 教職員	6/28 11/7 12/18	87
209	家庭・技術・家庭科(家庭分野)教育	川城	■実践的な実技研修を通して、教員の指導力や授業力の向上を図る。 学習指導要領の内容に基づいた調理実習、講義(中学校施設・家庭科研究会共催研修)講師：杉山久仁子(横浜国立大学教育学部教授)★	全校種 教職員	8/22	35
210	技術・家庭科(技術分野)教育	望月	■実践的・体験的な活動を通して、教員の指導力や授業力の向上を図る。 (1)技能・技術研修1(共催研修)材料と加工の技術・生物育成の技術 講師：高津・宮前地区教員★	中学校・高等学校教職員	8/22	18
211	英語科教育	大崎・大窪	■新しい英語教育に必要な指導方法について学び、授業改善を目指す。 (1)英語をより多く使って授業を進めよう 講師 外国人講師(ALTトレーナー)★ (2)学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり Here We Go!を活用した言語活動と評価 講師 (3)ICTを活用した授業づくり 講師 英語教育推進リーダー2名★	全校種 教職員	8/21	67
213	道徳教育(いのち・こころの教育)	岡部	■「いのち」について見つめ、考える機会をつくることのできる動物愛護センターの「いのちMIRAI教室」を体験する。子どもたちの豊かな心を育てるために、生命尊重の気持ち等が育まれるような単元や授業づくりについて研修する。★	小学校、特別支援学校教職員	7/24	11
214	特別活動	下村	■学級会の具体的な指導等を理論や実践を通して、学級活動の授業力の向上を図る。 (1)具体的な学級会の進め方 小学校特別活動研究会常任委員★	全校種 教職員	8/21	31
215	総合的な学習(探究)の時間	山城	■体験活動を学習活動に適切に位置付けて、単元構想する資質の向上を目指す。 (1)(2)福祉単元の充実 福祉教育の概論についての講演、各区社会福祉協議会職員の情報提供や福祉疑似体験から、各校の福祉単元の課題を見出す。実践事例発表を参考に、自校の福祉単元の見直しを図る。 高木 寛之(山梨県立大学准教授)★ (3)多摩川ガサガサ体験 多摩川における生き物との触れ合いや安全指導の講義を通して、体験を生かした単元のつくり方について研修する。中本賢(多摩川塾)★	全校種 教職員	8/16 7/25	53
216	高校教育	山本	■新学習指導要領で示された資質・能力の育成の実現に向けて、主体的に学習に取り組む態度の指導と評価について研修する。 講師 浦和大学 特任教授 工藤 文三◇	高校教職員	8/24	10

(4) 教育課題研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
301	同僚性を高める授業研究の進め方	大窪	■校内研究や研究推進校等での授業研究の進め方や研究のまとめ方について研修し、学校での研究を推進していくための資質の向上をめざす。 (1)はじめの一步を踏み出そう！小林宏己(早稲田大学教授)★ (2)笑顔で学び合う研究協議に変えよう！小林宏己(早稲田大学教授)★ (3)1年間の研究の進め方を振り返ろう！小林宏己(早稲田大学教授)★	全校種 教職員	4/28 6/30 1/19	41
303	子どもの心をひらく児童生徒指導	下村	■玉川大学TAPセンターによる信頼関係を育てる参加体験型の研修を通して、よりよい人間関係をつくる手立てを学び、学級経営、人権尊重教育に生かす。 川本和孝(玉川大学TAPセンター准教授)★	全校種 教職員	8/24	28
305	食育	川城	■学校全体で取り組む食育の推進に向け、食育の進め方や学校全体での取り組み方について学び、食育の実践につながる資質・能力を身に付ける。 食育の目的について理解し、学校全体で推進する取組について学び、教科だけではなく様々な場面で食育を推進できるようにする。講師：黒澤瑞紀(富士見台小学校 栄養教諭)、芹澤寿美(南原小学校 栄養教諭)★	全校種 教職員	10/26	33
306	自分を大切にする健康教育	野口	■健康教育では子どもたちの実態を把握し健康課題に即した内容について、学校教育活動全体として取り組むことが必要であり、各学校でも課題として感じている内容について講義や演習等を通して学び、健康教育の授業づくりに役立たせる。 (1)学校における健康教育の推進・横浜国立大学 教育学部教授 物部 博文★	全校種 教職員	11/17	50
307	主権者教育	鈴木	■川崎市の主権者教育について、主権者教育の手引き「自分の意思が社会を創る」の活用と実践について学ぶ。 (1)主権者教育概要説明・授業計画の作成★	全校種 教職員	8/9	3
308	企業研修	松本	■「カワスイ」を運営する株式会社アイ・レジャー・エンターテインメントのビジネスモデルを学ぶとともに、市内学校団体なども来場する「カワスイ」を研修の題材として、子どもへの関わり方や考え方について学び、様々な視点から教育活動に取り組むことができる資質や能力を高めまします。★	全校種 教職員	8/18	48
309	学級新聞づくり	門口	■新聞づくりのルールに基づき、まとめ方やレタリングの仕方について学ぶ(共催研修) 講師：市内中学校教員★	全校種 教職員	9/13	7
312	教育相談Ⅰ ゆうゆう広場見学	海川	■ゆうゆう広場の見学を通して、不登校児童生徒の居場所としての広場の理解を深める。★	全校種 教職員	7/24	49
313	教育相談Ⅱ ケース会議の理解と実際	海川	■アセスメントに基づいた児童生徒の理解と対応の仕方、ケース会議の進め方を講義と演習を通して学ぶ。 講師：東海大学心理・社会学科教授 芳川玲子★◆	全校種 教職員	7/25, 26	47
314	教育相談Ⅲ いじめをうまない学級学校づくり	海川	■いじめの実態や発生の背景等の理論、そしてその具体的な対応法や未然に防ぐ方法をロールプレイなどを通して実践的に学ぶ。★	全校種 教職員	7/27	17
315	教育相談Ⅳ 教員のための学校精神保健	海川	■思春期以降の子どもがかかる心の病気について理解し、基礎的な知識を学ぶ。 講師：明治大学子どものこころクリニック院長 山登敬之◆	全校種 教職員	7/31	78
316	教育相談Ⅴ 子どもの自立を考える	海川	「ジブリ映画」を題材に、子どもが自立に向かう育ちの過程を知り、児童生徒理解を深める。 講師：ちば心理教育研究所所長 光元和憲★	全校種 教職員	8/22	30
318	特別支援教育Ⅰ 「通常の学級での支援」	中澤	■通常の学級に在籍する児童生徒への支援について、各分野の教授等専門家から理論と具体的な方法を学ぶ。 (1)発達障害の認知機能と支援 川村学園女子大学 教授 今井正司 (2)通級指導教室と通常の学級との連携 東京学芸大学 准教授 増田謙太郎 (3)心理学の支援を生かした保護者対応 川村学園女子大学 教授 今井正司 (4)発達障害の子どもたちの意欲を高めるICT活用について一緒に考えてみませんか。 兵庫教育大学准教授小川修史 (5)WISC-IV解釈→指導→教材→支援 帝京大学 非常勤講師 山内まどか (6)愛着障害と発達障害の理解と支援 和歌山大学教授 米澤好史	全校種 教職員	7/28(1) 8/1(2)(3) 8/4(4) 8/3(5)(6)	599
319	特別支援教育Ⅱ 「特別支援学級・特別支援学校での支援」	松ヶ迫	■特別支援学級、特別支援学校に在籍する難聴、弱視、重度の障害がある児童生徒に対する基礎知識について理解を深め、実践的指導力の向上を図る。 (1)難聴教育概論(川崎市立豊学校教諭)◆ (2)難聴指導の実際、レポート報告(川崎市立豊学校教諭)★ (3)弱視の指導、弱視教育概論(横浜市立盲特別支援学校教諭)◆ (4)弱視指導の実際(横浜市立盲特別支援学校教諭)★ (5)重度障害児教育概論(上越教育大学名誉教授 土谷良巳)★ (6)重度障害児・弱視児童生徒レポート報告及び協議 (上越教育大学名誉教授 土谷良巳)★	特別支 援学 校、特 別支 援学 級担 任	6/19 6/28 7/3 7/26 6/26 8/2	18

(5) 職能別スキルアップ研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
401	養護教諭キャリアアップ	野口	■社会や環境の急激な変化により、子どもの健康課題は複雑になり多様化してきている。その解決のために養護教諭の果たす役割は益々重要となっている。専門的な知識、技術を演習を通して学び資質の向上を図る。 (1)令和4年度 文部科学省健康教育指導者養成研修報告 川崎市立麻生中学校 総括教諭・養護教諭 田中 里美 カリキュラムセンター 指導主事 野口 裕子 (2)子どもの心を動かす授業 佐見由紀子(東京学芸大学教職大学院教授)◆	養護教諭	8/23	89
403	栄養教諭・学校栄養職員	川城	■食に関する指導について学び、指導力の向上を図る。 「食に関する指導教材・教具活用の実践」・小山 さくら(麻生小学校 総括栄養教諭)・佐藤 法敏(柿生小学校 栄養教諭)★	栄養教諭・学校栄養職員	9/22	35
405	幼児教育と小学校教育の接続	山城	■幼児教育と小学校教育の円滑な接続 幼児期に培った力を小学校教育で生かすために、幼小の学びの接続について研修する。 幼保小の架け橋プログラムの実践に向けて～具体的な事例から学ぶ～ 講師 渡邊 英則(港北幼稚園理事長兼園長、ゆうゆうのもり保育園園長)◇	全校種教職員	8月上旬より3月上旬まで	175

(6) リクエスト研修 その他

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
	リクエスト研修		■学校から要請されたテーマに応じて、担当の指導主事が講師を務める。 (1)要請に応じて随時設定・指導主事(総合教育センター)	全校種教職員		2,514

3 カリキュラムセンター事業

学習指導要領、かわさき教育プラン等を踏まえて、教育諸課題に係る研究を行うとともに、研究成果をもとに教員の資質・能力を高め、学校の指導体制を構築するための支援を行った。

■事業目標

- 1 学習指導要領等に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実
- 2 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進
- 3 教職員の資質・能力や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備
- 4 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進
- 5 所管業務の効率的な執行

■事業内容

1 学習指導要領等に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実

(1) 川崎市学習状況調査の研究及び習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の支援

- 学力分析研究会を設置するとともに全指導主事により学力調査全般について研究を進めた。また、小学校3校、中学校1校のモデル校での取組を基に、課題を抽出・分析し、その成果をセンター研究報告会等で周知し、各学校が学習改善や授業改善に生かすことができるように資料を作成した。
- 各学校に「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」担当者を置き、担当者会で、GIGA端末を活用した指導、「授業実践DVD」の活用、学校における指導体制等についての情報交換を行った。

(2) 拡大要請訪問・要請訪問の実施

- 各学校の教育課程の編成や授業力向上に向けた校内研修や研究を支援するため、指導主事をチームで派遣する拡大要請訪問を実施するとともに各教科等の個々の要請に応じて指導主事を派遣した。また、拡大要請訪問が各学校の年間を通した授業改善への取組に位置付けられるよう支援した。

★拡大要請訪問2校実施

(3) 教育課程研究会の開催及び教育課程編成・学習指導に係る指導資料の作成

- 教育課程研究会では、授業研究や研究協議を通して、学習指導要領の趣旨や内容について周知するとともに、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「児童生徒の発達を支える指導の充実」「GIGA端末を活用した授業づくり」等についての理解が深まるよう努めた。
- ★6月 授業研究会 8月 実践報告会等は双方向型オンラインで実施
- 小・中学校については、各学校が学習指導要領及びかわさき教育プランの理念・目標の実現に向けた教育課程編成や授業づくりに活用できる総則資料を作成した。同様に、研究(部)会との連携を図りながら各教科等の学習指導要領実践事例研究資料を作成し、web掲載を行った。
- 高等学校については、学習指導要領の趣旨や内容及び喫緊の課題を各教科等研究協議会等の機会を活用し伝達することにより、各学校への周知を図った。
- 冊子「新学習指導要領に基づく授業改善の手立て」をライフステージに応じた研修や拡大要請訪問等で活用するほか、各学校の校内研修等や日々の授業実践で活用するよう促進した。

2 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進

- 研究主題「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成」のもと各種研究に取り組んだ。

(1) 学校教育に関する調査・基礎研究

- 指導主事による施策研究及び調査・基礎研究、「1人1台端末の効果的な活用」「川崎市学習状況調査の結果分析」の授業改善に関する研究を進めた。

(2) 各学校の教育実践に資する研究の推進

- 研究(部)会等との連携を図り、長期研究員を配置した研究会議、指導主事と研究員による研究会議を中心に各教科等・教育課題に係る実践研究を推進し、各学校の授業改善等の取組を支援した。
- ★長期研究員による研究 6研究 指導主事と研究員委による研究 5研究
カウンセラー研究 1研究 そのほか各室指導主事による指導主事研究
- ★研究報告会参加者 615名

3 教職員の資質や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備

(1) 必修・希望研修の充実

- 教職員のライフステージに応じた年次研修を中心とする必修研修、教職員のニーズに応じた希望研修を教職員育成指標に基づいて実施し、専門職としての資質・能力や指導力の向上を図った。また、「学

び続ける教員」の育成と「働き方、仕事の進め方」の観点の両面からの研修の充実とオンラインの活用を含めた研修形態の見直し等、研修推進体制の整備に努めた。

- 冊子「～学び合う先生、育ちゆく学校～教師力を高めるガイドブック」をもとに、教員一人一人が課題と目標をもって学び続けること、及び、教員同士が学び合い、育ち合う学校の実現に向けて支援した。

(2) 指導改善研修の充実

- 研修指導員の指導の下、受講者の研修課題に応じた適切な研修を実施した。

4 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進

(1) 学校経営に係る教育課題への対応

- 小・中学校の校長会と連携を図り、川崎市学習状況調査を実施した。調査結果を分析し、報告書を作成するとともに、報告会等を通じて各学校へ全学的な課題と授業改善の視点等を周知した。拡大要請訪問等を活用し、各種調査の結果等をもとに、指導主事が授業改善に向けての指導助言を行った。
- 全国学力・学習状況調査については、調査結果の経年比較を含む詳細な分析を心掛け、分析結果を示すとともに、全国学力・学習状況調査に係る授業改善についての説明会を実施した。
- 各教科等・教育課題等に係る研究推進校事業や研究研修支援講師派遣事業等を実施し、各学校の教育活動の改善・充実に向けた取組を支援した。

★研究研修支援講師派遣 24件 研究推進校 31校

- 川崎市の教員を目指す大学生等に向けた「かわさき教師塾『輝け☆明日の先生』」を開講した。

(2) 各教科等に係る教育実践への対応

- 各教科等に係る関連事業については、研究（部）会と連携を図りながら適切に実施した。
- 小・中・高等学校及び特別支援学校にALT配置による外国語（英語）教育の支援を行った。また、英語教育改革に対応した小学校外国語（英語）教育中核教員（CET）研修、中・高等学校外国語（英語）教育指導力向上研修を円滑に実施し、教員の英語力及び指導力の向上を図った。

★配置ALT数 小・中学校 107名 高等学校 6名

- 理科教育の推進について、横浜国立大学と連携して「現職教員CST養成プログラム」を実施し、中核的理科指導教員の育成を図るとともに、理科希望研修、中学校理科初任者教員指導力向上研修、市立学校理科主任研修を実施し、授業力向上のための支援を行った。また、小学校の全校に理科支援員を配置し、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質・能力の向上を図った。

★理科支援員配置校 小学校114校

★CST認定者数 2名、全76名、CSTによる研修実施 6回

- 「特別の教科 道徳」が円滑に実施されるよう、小中合同道徳教育研修や道徳教育推進教師研修、教育課程研究会等において、指導方法及び評価等についての研修を充実させた。

★小中学校道徳教育研修は約250名受講

- 主権者教育、キャリア在り方生き方教育、学校進路対策、高校教育等各種教育課題に対する事業等を円滑に実施した。
- 教育課題研究、副読本かわさきの編集・発行、読書のまち・かわさき事業、子どもの音楽活動推進事業等の各種事業を円滑に実施した。

(3) 人権尊重教育の推進

- 教育政策室に協力し、人権尊重教育担当者研修や人権移動教室、進路説明会の実施等に係る事業を円滑に実施した。

5 所管業務の効率的な執行

(1) 各種指導事務の円滑な推進

- 各種事業について、他室や指導課、区教育担当、教育政策室等と連携して実施した。
- 学籍・指導要録等公簿の作成に係る事務、夜間学級運営、教育実習等の指導事務を円滑に実施した。

(2) 各種事業の基盤としての所内業務等の円滑な推進

- 研究・研修推進に係る担当者会の企画・運営などの所内及び室内業務を円滑に実施した。
- 会議の精選、研修等応援体制の見直し、事務作業の軽減等により必要な業務遂行時間を生み出した。

(3) 教育研究所連盟等に係る業務の円滑な推進

- 神奈川県、関東地区、指定都市、全国の各教育研究所連盟等との連携を図った。

(4) 横浜国立大学との連携事業

- アドバイザースタッフ派遣事業、連携講座の開催等の連携事業の推進を図った。

★アドバイザースタッフ派遣 7件

4 情報・視聴覚センター事業

情報・視聴覚センターでは、「教育の情報化」を推進するために市立学校のICT環境の整備、運用管理、さらに教員の授業力向上に向けてICT活用指導力を高めるための研究・研修等を行っている。令和3年度から段階的に進めてきた「かわさきGIGAスクール構想」もステップ3の段階に入り、「一人一人の子どもが主語の端末活用」を合言葉に、GIGA端末活用による授業改革に取り組んでいる。

また、川崎市7区にある視聴覚ライブラリーとの連携を図り、市民団体や学校の教育・学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業の推進を図っている。

■重点目標

I 教育の情報化推進事業の推進

- 1 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業推進
- 2 情報化推進モデル校を活用した取組の推進
- 3 情報モラル教育の充実
- 4 学習活動等で必要となるICT機器の更新・整備
- 5 校務支援システムの活用を中心とした教職員の働き方改革の推進
- 6 ネットワーク環境の充実に向けた取組の推進

II かわさきGIGAスクール構想推進事業の推進

- 1 「かわさきGIGAスクール構想」に基づく着実な人材育成と現場におけるステップアップの支援
- 2 学校での活用を促進する人的支援
- 3 教科用デジタルコンテンツ等の活用に向けた検討
- 4 学習履歴（スタディ・ログ）など教育データの整理と活用
- 5 児童生徒の増加等に対応したGIGA端末および通信環境の充実

III 視聴覚センター事業の推進

- 1 視聴覚ライブラリーの運営及び視聴覚教材・機材の整備・貸出
- 2 平和・人権教育等に関する視聴覚教材の選定・購入
- 3 わが町かわさき映像創作展の開催
- 4 映像教材の開発と提供

■事業内容（事業概要） ○主な内容 ★実績数等

I 教育の情報化推進事業の推進

1 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業推進

○令和4年3月に策定した「川崎市立学校における教育の情報化推進計画（第3期）」に基づき、機器整備・保守、研究・研修の充実を図るとともに、児童生徒の情報活用能力の育成、教員の指導力の向上、学校業務の効率化に取り組んだ。各学校が具体的に教育の情報化に取り組むことができるよう、研修を企画実施し教職員のスキルアップを図った。また、情報教育学校担当者会において、新たな課題の一つとして生成AIの将来的な利用に向けて、適切に使用するための知識や情報モラルを含む情報活用能力の育成がより大切になっていることについて研修を通して周知した。

★各校代表者参加研修（情報教育学校担当者会、学校ウェブサイト担当者会）を計4回実施した。

★教職員向け希望研修（情報セキュリティ及び情報モラル教育、小学校情報教育研究会との共催研修）を計3回実施した。

★学校からのリクエスト研修（情報モラル指導）を計4回実施した。

2 情報化推進モデル校を活用した取組の推進

- (1) 校務支援システム活用の推進に向けたモデル検証・共同研究
 - 教育情報化推進モデル校2校（旭町小学校、川崎高等学校附属中学校）で校務支援システム活用の推進に向けた研究を行った。
- (2) 校務支援システム新機能の活用の推進に向けたモデル検証および活用事例の発信
 - 校務支援システムの児童生徒の学校生活の様子を記録する機能や学習や保健等の情報を集約して表示する機能について、モデル校を中心に全校分を検証し、入力の内容や頻度など運用面だけでなく、更なる活用の促進に必要な研修の内容等について多くの知見が得られ、次年度予定されている研修に向けた動画を作成した。

3 情報モラル教育の充実

- (1) 情報教育に関する冊子（「5分でわかる情報教育Q&A」）の更新・活用推進
 - 学習指導要領で各教科等の学習の基盤となる資質・能力として示された情報活用能力（情報モラルを含む）の育成を引き続き周知するため「情報教育」に関する項目について、「1人1台端末活用の場面での情報モラル」「教科等横断的に短時間でも繰り返しの指導による情報モラルの習慣化」「著作権」に関する内容を新たに加え充実させた。
 - 「学校情報セキュリティ対策基準」において個人情報や可搬媒体（USBメモリ等）に関する取り扱いについて改定した。（第5版：令和5年9月29日付5川教総セ第1807号）
- (2) 各学校での情報モラル教育職員研修の実施
 - 各学校において情報モラル教育職員研修を年1回以上実施するよう依頼した。また、研修講師による講演会やリクエスト（学校訪問）研修を学校に周知した。
 - 学校での可搬媒体（USBメモリ等）扱い、フィッシングメール等の注意喚起を行いコンピュータウイルス対策の周知徹底に努めた。
 - USBメモリ等の適切な扱いについて、個人情報の管理について徹底することを目的とし各学校に管理台帳作成と資産管理システムへの登録を各学校へ依頼した。また、学校教育部指導課とともに、市立学校の抽出校に対してUSBメモリ等の実態調査を行い、学校現場の実態把握とUSBメモリ等の適切な扱いに関する周知を継続した。
 - ★教職員向け希望研修を1回実施した。
 - ★学校からのリクエスト研修を計2回実施した。
 - ★庶務課と連携して「学校における情報管理・法令順守等に関する研修」を1回実施し、具体的な内容に基づいた研修とすることで、教職員の情報モラル意識向上に取り組んだ。
- (3) 市立学校インターネット問題に対する取組の推進
 - 「川崎市立学校インターネット問題連絡協議会」を2回開催し、ネットトラブルについて学校、PTA、県警等と情報交換をし、児童生徒への指導の共通認識を確認した。情報・視聴覚センターでは、最新の情報をもとにして、教職員研修を実施したり、保護者向けリーフレットに最新の情報を盛り込んだりして協議会の内容を生かした取り組みを行った。
 - インターネット監視を継続して実施した。（ネットトラブル発見時は、指導課、各区教育担当、学校への連絡、状況によってプロバイダへの削除依頼等対応）
 - ★インターネット問題 相談総件数51件（4～12月）
（内容別件数）
 - ・批判、悪口、苦情 9件 ・人間関係トラブル 4件 ・個人情報流布 1件
 - ・その他（ネット外を含む内容） 37件
 - ネットトラブルの未然防止、啓発等のため「川崎市版 保護者向けインターネットガイド（2023年度版）」（A3判裏表）（全小1～高3保護者・教職員に配付）として作成した。

4 学習活動等で必要となる ICT 機器の更新・整備

○教育環境の充実や教職員の業務の効率化をめざし、本市における中・長期的、総合的な「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」を基にした整備を進めた。

今年度実施した主な整備は次の通り

- ・校務用コンピュータ機器更新・増加分整備（小・中・高・特支・教委）
- ・川崎市立小杉小学校教育用 ICT 機器等入替
- ・川崎市立高等学校 ICT 機器整備（幸・橘・高津）
- ・川崎市立特別支援学校教育用 ICT 機器等更新
- ・川崎市立田島支援学校さくら分教室教育用 ICT 機器等更新

5 校務支援システムの活用を中心とした教職員の働き方改革の推進

(1) 校務用コンピュータで使用する外部可搬媒体（USB メモリ等）の安心安全な管理手法の確立

○資産管理システムによる市立学校の外部可搬媒体（USB メモリ等）の管理について、令和 4 年度から登録されたもの以外は使用できないフル制御の運用開始を行った。令和 5 年度からは各学校と管理台帳の共有を行い、外部可搬媒体の新規追加や所属情報変更、破棄の作業を適切に行った。

(2) 校務支援システムの活用促進及び学務システムの活用促進

○教員の校務の効率化と重要情報保護の観点から校務支援システムや学務システムの円滑な運用を図った。校務支援システム（C4th）については、児童生徒一人一人の学習面・生活面を一覧で俯瞰して可視化できる機能（ダッシュボード）を加え、情報化推進モデル校での検証結果をもとに全市での取り組みに活かした。また、操作等と支援するために研修を行ったり、ヘルプデスクと連携をしたりし、活用の促進を図った。

★中学校向けに帳票作成に係る研修を計 4 回実施した。

★小学校、中学校、特別支援学校の C4th 操作についての訪問サポート回数 160 回

○高等学校学務システムについては、各学校の要望を考慮し更改を行った。

(3) 情報共有・発信ツールとしての SAINS-WEB の活用促進

○SAINS-WEB は教職員への周知方法との一つとして定着している。コンテンツの掲載にあたり、庁内での連携強化を図るために、掲載依頼書やデータの収受については行政系のメールや共有フォルダの活用を進めた。

★他室、他課からの SAINS-WEB 掲載依頼 211 件（昨年度 221 件）

(4) 保護者や地域への情報発信ツールとしてのウェブサイト（CMS）の充実及び活用促進

○より効率的・効果的にウェブサイトを用いることができるコンテンツマネジメントシステム（CMS）による総合教育センター・学校・研究（部）会のウェブサイトを保守・管理するとともに、公開されたページの巡回確認を行い、ページの新規作成や更新を支援した。

★令和 5 年度 3 月 1 日現在のサイト数は、小学校 114 校、中学校 51 校、高等学校 5 校、特別支援学校 8 拠点、研究（部）会 28。

6 ネットワーク環境の充実に向けた取組の推進

(1) 図書館総合システムの新システム導入に向けた検討及び運用

○新学校図書館システムの新システム導入に向け、各学校のネットワーク切り替えや端末の設定等を 9 月までに実施、10 月から新学校図書館システムが稼働した。中原図書館システム担当者と連携し、新学校図書館システム運用を開始した。

○図書館システム管理運営協議会や図書館システム定例会において、図書館システム（学校）の課題や運営方法について検討を行った。

○年 2 回の図書担当者連絡会でのシステム研修及び、総括学校司書・学校司書への研修を計画的に実施した。

- (2) 複数のネットワークや端末等システム最適化に向けた技術的な検討
○複数のネットワークや端末の最適化に向け、国の動向も注視し継続して検討をした。

Ⅱ かわさき GIGA スクール構想推進事業の推進

1 「かわさき GIGA スクール構想」に基づく着実な人材育成と現場におけるステップアップの支援

- (1) 段階的なステップアップの実現を支える教職員のスキル向上に向けた研修の実施と授業での活用支援
★教職員向け希望研修（デジタル教科書活用研修・ミライシード操作研修・端末持ち帰り研修・端末操作研修・プログラミング研修等）を計 20 回実施した。
★学校からのリクエスト研修（端末操作研修・授業での端末活用研修・GIGA スクール構想ステップ 3 にむけた研修等）を 12 回実施した。
- (2) 研究推進協力校における取組の支援と共有による事業の充実
○推進協力校 13 校、研究推進校 1 校における支援を通して、かわさき GIGA スクール構想ステップ 3 の実現に向けた研究を推進するとともに、授業公開等を通して研究成果を横展開した。推進協力校の取組について、「かわさき GIGA スクール構想 情報共有サイト」で公開、周知する。
- (3) ICT 活用研修の充実と各教科・各校種における活用の推進
○ステップ 3 の取組を推進するために、小学校教育研究会において管理職向け研修を計画し実施した。令和 4 年度の取組を研修資料「かわさき GIGA スクール構想の取組について」にまとめ、校長会で配布・周知した。
○「かわさき GIGA スクール構想情報共有サイト」に、各学校の GIGA スクール構想推進教師（GSL）から集めた各教科等の実践事例を掲載し、活用事例を広く共有した。
★教職員のニーズやステージに応じて、希望研修を 20 回、リクエスト研修を 12 回、それぞれ実施した。

【Ⅱ 1-(1)再掲】

- (4) ICT 支援業務の実施
○授業や学校行事における GIGA 端末の操作支援やオンライン学習に必要な GIGA 端末等の操作支援、端末活用事例の紹介やアプリケーションに関する操作研修などを行い、教職員のスキル向上を図った。令和 6 年度は、ICT 支援員に授業でのサポートの依頼が増えてきた。
★小・中・特別支援学校に ICT 支援員を計 1,690 回派遣した。

2 学校での活用を促進する人的支援

- (1) GSL 研修会や要請訪問研修等の実施に向けた指導主事の派遣
○拡大要請訪問の全体会や分科会では、校内で GIGA 端末が活用されていた学習場面を共有しながら、かわさき GIGA スクール構想ステップ 3 のキーワードである「一人一人の子どもが主語の端末活用」授業へと変革していくための支援を行った。
★GSL 研修（3 回）を実施、また拡大要請訪問（22 回）に派遣した。

3 教科用デジタルコンテンツ等の活用に向けた検討

- (1) デジタル教科書の活用に関する研究と取組の推進
○年度初めに、文部科学省の実証事業で提供された英語と算数・数学の学習者用デジタル教科書のすべてのライセンス整備をした。

★学習者用デジタル教科書活用に向け、文部科学省の実証事業に参加し、それに伴い研修会を1回開催するとともに、文部科学省作成の「学習者用デジタル教科書の活用による指導力向上ガイドブック」を周知した。

(2) 副読本のデジタル化支援と活用の促進

○副読本のデジタル化を希望する部署を集め、デジタル副読本説明会を実施した。作成に関わる支援を適宜行うとともに、既存の副読本の更新手続きや、内容の相談等も併せて行い、児童生徒の利活用できる環境を整えた。

★各部署のデジタル副読本作成を支援し、16の副読本をサイトに掲載した。(12部署)

4 学習履歴（スタディ・ログ）など教育データの整理と活用

(1) 教育データの利活用に向けた整理

○市・学校・学級・個人単位でのスタディ・ログ活用に向けた研究を行うとともに、データ活用について学校でGIGAスクール構想を推進する教師（GSL）に研修で、学習eポータル（OPE）を利用することで、児童生徒のアクセス履歴データが視覚的に把握できるようになることを周知した。

(2) GIGA 端末における教育データの活用状況の調査及び指導・改善に向けた取組の実施

○学習eポータル（OPE）を使って児童生徒が文部科学省のCBT調査（MEXCBT）に回答した結果を、教職員がどのように活用できるのか調査した。

5 児童生徒の増加等に対応したGIGA 端末および通信環境の充実

(1) 児童生徒数の増加等に応じた各種環境の整備

○約11万7千台の学習用端末の資産管理、保守を行った。

○市立学校のうち173拠点のインターネット接続環境の整備、校内ネットワーク環境のため通信機器（無線アクセスポイント約6千台等）の保守、ライセンス管理を行った。

(2) 利用状況に対応した通信環境の確保に向けた調査・検討

○ネットワーク通信環境について、小学校6校、中学校1校でアセスメントを実施した。

○貸出用モバイルルータ（約4千400台）について、使用実態に合わせた配備数の調整を行った。

(3) 利用アカウントの発行、管理等の効率的な運用

○児童生徒分約10万9千名、教職員分約7千名（非常勤講師及び事務局職員を除く）が使用するための利用アカウントの維持管理、異動、年次更新処理を行った。

Ⅲ 視聴覚センター事業の推進

市内各区の視聴覚ライブラリーと連携した視聴覚センター事業を推進した。視聴覚センター機能として、市民団体や学校の教育及び学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業を一層推進し、41回を迎えた「わが町かわさき映像創作展」の充実・発展をめざした。

1 視聴覚ライブラリーの運営及び視聴覚教材機材の整備・貸出

○教育文化会館や各市民館の視聴覚ライブラリーと、総合教育センター内の視聴覚センターを週2回連絡便で結び、教材等の配送を行った。また、視聴覚機材は、各ライブラリーで管理し、市民団体等へ貸出を行った。

※令和5年度視聴覚教材の貸出状況（センター→ライブラリー）

教材		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
16mm フィルム	本数	0	10	10	10	23	9	0	6	9	7	0	5	89
ビデオ・DVD	本数	0	0	1	19	7	3	5	3	4	4	2	0	48
その他	本数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	本数	0	12	11	29	30	12	5	9	13	11	2	5	139

2 平和・人権教育等に関する視聴覚教材の選定・購入

○ 平和教育映像教材等連絡調整会議を 11 月 17 日（金）に開催を経て、平和教育・人権教育・環境教育等に関する視聴覚教材を選定し、7 作品を購入した。

★11 本選定、購入

3 わが町かわさき映像創作展の開催

○ わが町かわさき映像創作展は 41 回目を迎えた。事前に案内等の広報活動を行い事業の円滑な推進を図った。

- ・応募期間 令和 5 年 10 月 10 日（火）～令和 6 年 1 月 5 日（金）
- ・応募総数 30 点
- ・審査日 令和 6 年 1 月 26 日（金）
- ・審査員 6 名
- ・表彰
・グランプリ 1 点（賞状・トロフィー） ・金 賞 1 点（賞状・楯）
・銀 賞 2 点（賞状・楯） ・優秀賞 4 点（賞状・楯）
・奨励賞 4 点（賞状・メダル）

・表彰式・作品上映会 令和 6 年 2 月 17 日（土）

・入賞作品

グランプリ

「笑顔の贈り物 ～HRM12Ver. ～」 平間小学校 6 年・HRM12

金賞

「好きです 宮前 マイタウン ～郷土を探る～」

宮前平中学校放送部郷土班

銀賞

「生徒会調査隊」

宮前平中学校放送部映像班

「1 分で分かる！川崎地名の秘密」

橘中学校マルチメディア研究部

優秀賞

「かわさき夏の探検隊②親子スポットを巡れ！」

専修大学文学部ジャーナリズム学科 高野 葵葉 深瀬 智香

「多摩川の魅力を探れ！」

専修大学文学部ジャーナリズム学科 近藤 夏実

「まちの在処」

専修大学ネットワーク情報学部 藤原プロジェクト

「西有馬小学校校歌 動画 6 年 4 組」

西有馬小学校 熊谷 佐江子

奨励賞

「My Earth」

高津高等学校 視聴覚委員会 A

「ヘルメットであいうえお作文」

高津高等学校 視聴覚委員会 B

「プログラミングツールの使い方」小杉小学校 佐藤 譲

「もち時代のもち幕府」

小杉小学校 中村 咲

4 映像教材の開発と提供

市内小中学校での地域を素材として学習教材として、市内の産業・文化・歴史・自然・人や川崎の子どもたちの教育活動に関する映像教材を独自に制作した。

※ 情報・視聴覚センターの事業を円滑に推進するための関係会議の開催・運営

- (1) 情報化推進協議会（校長会・学校）
- (2) 情報教育学校担当者会（全学校）
- (3) 情報収集活用委員会（研究(部)会）
- (4) 学校ウェブサイト担当者会
- (5) 保守定例会（コンピュータ機器保守業者）
- (6) ネットワーク定例会（ネットワーク保守業者）
- (7) GIGA 保守定例会（GIGA 端末等保守業者）

- (8) CMS 定例会 (CMS 保守業者)
- (9) 校務支援システム定例会
- (10) 高等学校学務システム担当者会
- (11) 平和教育映像教材等連絡調整会議
- (12) わが町かわさき映像創作展連絡調整会議
- (13) 川崎市立学校インターネット問題連絡協議会

5 特別支援教育センター事業

「かわさき教育プラン」には、共生社会の形成をめざし、一人一人の教育的ニーズに適切に対応する支援教育の推進が記載されている。特別支援教育センターは、「第2期川崎市特別支援教育推進計画」に基づき、各事業を通して川崎市の特別支援教育の振興を図っている。令和5年度の事業概要は次のとおりである。

1 「第2期川崎市特別支援教育推進計画」の計画的実施

- (1) インクルーシブ教育システムの構築や多様な学びの場の整備（支援教育課と連携）
- (2) 小中高、特別支援学校における支援教育コーディネーターの取組を支援
- (3) すべての教職員に特別支援教育に関する基礎的な知識や理念、関係法令等の理解。また、多様な学びの場における教職員の専門性の向上

2 特別な教育的ニーズのある子どもの相談や支援の充実

(1) 教育相談の実施

①来所相談の概要

一般相談のうち、継続ケースや定期ケースが多く、新規相談の対応ができていく状況が続いていたため、継続相談や定期ケースについては、受理会議等で十分審議しつつ、真に必要な場合のみ受理するなど、業務改善に努めてきた（表1）。それによって、令和5年度は新規ケースの相談が増えており、市民サービスの向上につながっている。

表1 ケースごとの来所相談面接回数

	令和3年度	4年度	5年度
新規ケース	2,612	2,770	3,196
継続ケース	301	106	90
定期ケース	258	152	121
就学・入級ケース	2,469	2,639	2,796
総面接回数	5,640	5,667	6,203

②相談待機日数

相談の申込から初回面接までの待ち日数（年平均）は、就学相談35日、入級31日、一般相談46日、平均37日であった。相談の在り方の見直しを図ったが、相談の件数は増えているため相談待機日数はあまり短縮することができていない。

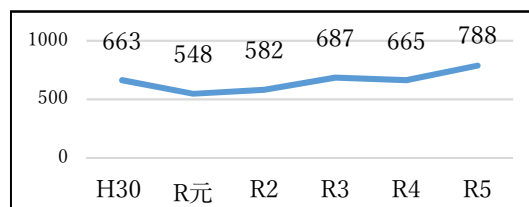
③電話相談 教育相談センターの電話相談の項を参照

(2) 就学相談の実施

①就学相談件数の推移

相談件数は、年々増加傾向にある。令和元年度から通常の学級への就学意向である場合は、一次相談を小学校に変更したことから、令和元年度は

図1 就学相談件数



件数が減少した。その後は少しずつ増え、令和 5 年度は大幅に増加した。

令和 5 年度より就学相談専門員が 4 名体制となり、就学相談の全体数が増えていても指導主事の相談面談数は比較的増えなかった（表 2）。表 2 就学相談面談回数

	4 年度	5 年度
就学相談専門員	328	557
指導主事	424	479

調整担当指導主事が幼稚園・保育園等の訪問を実施し、複数場面で幼児の様子を観察することにより、多角的に教育的ニーズおよび必要な支援を把握するよう努めた。

相談内容としては、医療的ケアを必要とする児童や重複の障害を併せ有する児童、保護者の意向の多様化など、学びの場の合意形成が困難なケースが増加している。

②就学説明会（初就学）の実施

就学相談にかかわる情報については、引き続きホームページで動画配信・資料掲載を行った。

③総合教育センター相談室における就学相談

地区担当指導主事と就学相談専門員は、保護者との面談を行い、心理臨床相談員は、子どもの行動観察を行った。初回相談から就学に向けての合意形成まで、必要に応じて学校、関係機関等と連携しながら相談を継続した。認定特別支援学校就学者の判断にかかわる相談や合意形成が困難な相談については、相談や行動観察を複数で対応するとともに、指導主事が幼稚園・保育園、療育センター等を訪問し、日常の様子を観察したり、小学校での教育相談に指導主事が同行したりするなど、より丁寧な相談を行った。

④川崎市教育支援会議の運営

就学先決定にかかわって、専門家からの意見聴取の機会を設定し、川崎市教育支援会議（年 4 回）、教育支援会議専門部会（9 月～3 月）を開催した。教育支援会議での審議件数は増加傾向にある。特別支援学校小中学部および小中学校特別支援学級への就学・進学状況は以下のとおりである（図 2～6）。

教育的ニーズおよび必要な支援にかかわる審議内容の傾向としては、本人・保護者との合意形成に向けてより丁寧な相談が必要なケースや、周産期医療の進歩から複数の障害を併せ有する子どもの支援や発達障害等があり、知的な遅れはないものの行動調整への配慮や支援等が必要なケースについて、専門家からの意見聴取をおこなった。

図 2 教育支援会議審議件数（初就学・既就学）

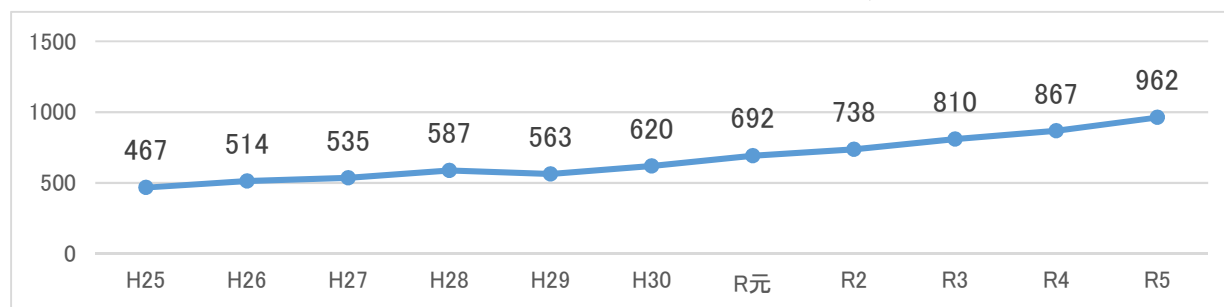


図3 特別支援学校小学部への就学（県立・市立）

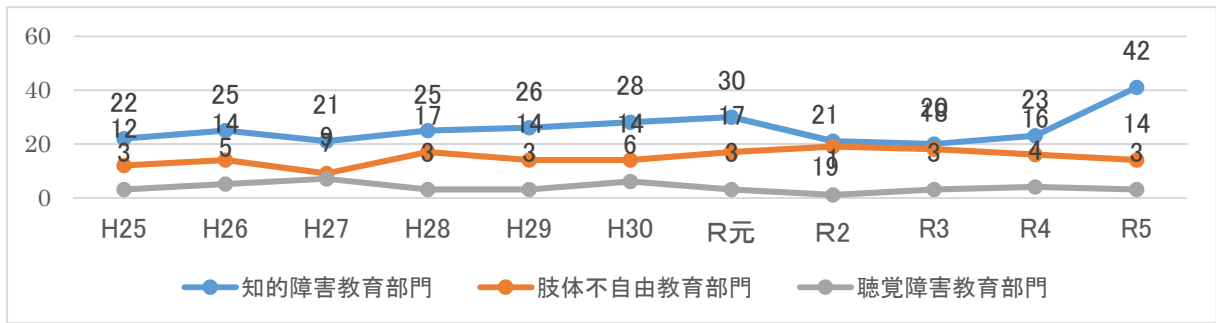


図4 小学校特別支援学級への就学

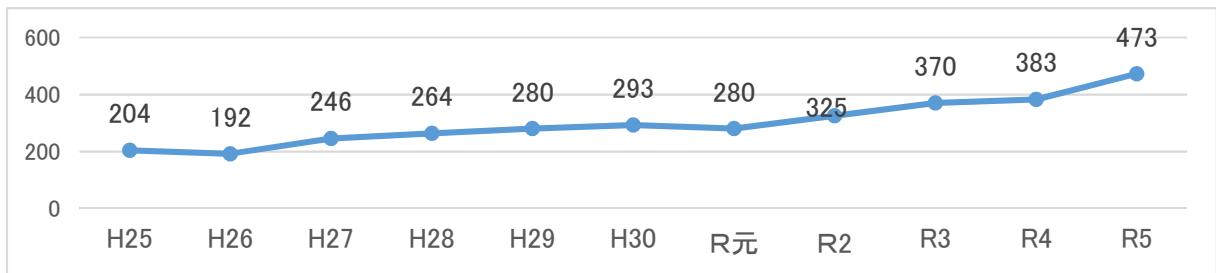


図5 特別支援学校中学部への就学（県立・市立）

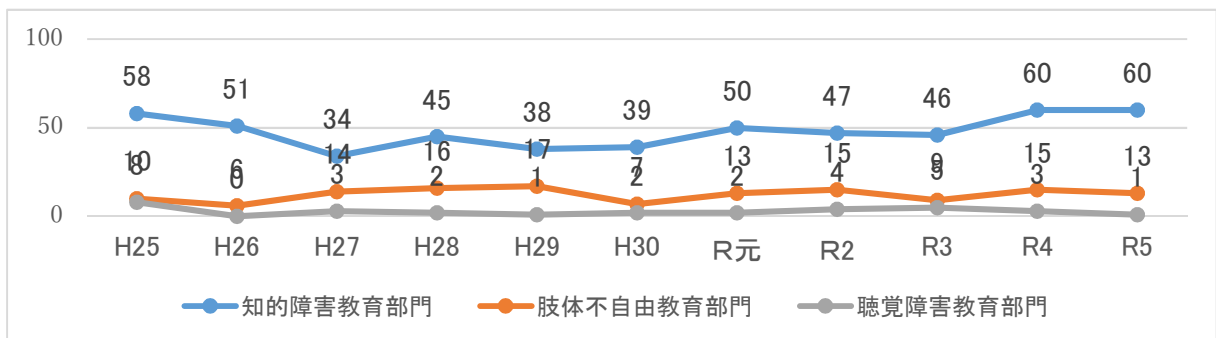
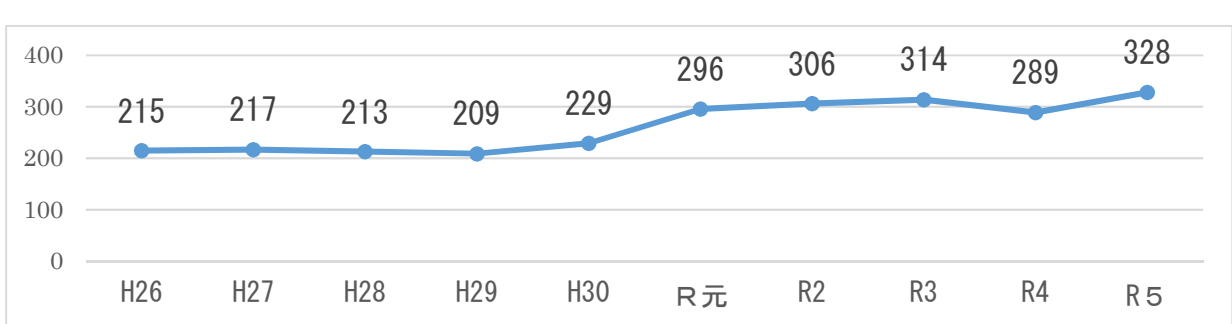


図6 中学校特別支援学級への進学



⑤就学相談フォローアップ

令和5年度、就学児童の様子について指導主事が小学校特別支援学級に21校に訪問し、授業参観をするとともに、必要な支援等について管理職および学級担任等と情報交換をおこなった。

⑥中学校・特別支援学校進路相談連絡会（学校教育部指導課所管）

特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について、県教育委員会、川崎市中学校特別支援学校進路連絡会と連携し、事前の進路指導にかかわる資料配布に努めた。

⑦通級指導教室対象児童生徒入級審査会の運営（学校教育部指導課所管）

- ・入級審査会実施回数 小学生対象 5 回、中学生対象 7 回
- ・審議件数 492 件（小学生（言語 188 件、情緒 212 件、難聴 10 件）、中学生対象 82 件）

（３）学校コンサルテーションの充実

来所相談した児童生徒の相談に関わって、保護者の了解が得られたケースについて学校コンサルテーションを行った。子どもへの理解を深め、より適切な支援・指導を行うために、支援教育コーディネーター、担任、養護教諭等と情報交換を行い、学校が個別の指導計画を作成・活用するための助言に努めた。年間件数は延べ 35 件だった。

また、令和 3 年度より、来所相談における検査結果を学校支援につなげていく目的で、検査結果報告書を 412 ケース作成した。

3 特別支援教育に関する研修の充実

「支援教育コーディネーター必携」及び「特別支援学級担任のためのハンドブック」を作成・活用し、個別の教育支援計画に基づく支援の充実を推進した。

また、必修研修及び希望研修では、研修機会の拡大を目的としてオンライン研修を充実させた。障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するための GIGA 端末の活用について発信した。

（１）必修研修

- ア 特別支援学級等新担任者研修（オンライン 5/6 回 登録 134 名 延べ 709 名）
- イ 特別支援学級等新担任者 2 年目研修（オンライン 1/2 回 登録 77 名 延べ 127 名）
- ウ 通級指導教室新担任者等研修（オンライン 5/6 回 登録 22 名 延べ 115 名）
- エ 支援教育コーディネーター養成研修（オンライン 2/6 回 登録 22 名 延べ 106 名）
- オ その他（特別支援学校 2 年目研修、臨任研修、サポーター研修）

（２）希望研修（特別支援教育研修）

- ア I 通常の学級での支援（オンライン 6/6 回 延べ 559 名）
- イ II 特別支援学級・特別支援学校での支援（オンライン 6/6 回 延べ 18 名）
- ウ 教育課程研究会（小学校オンライン 1/1 回、中学校オンライン 1/1 回）
- エ 校内研修
 - ①校内職員研修に指導主事を派遣するリクエスト研修 19 回
 - ②校内授業研究会等の講師として、指導主事派遣 2 回

5 特別支援教育推進に関する研究の実施

令和 4・5 年度研究推進校である東住吉小学校においては、本市における特別支援学級の学級経営や授業づくりにおける課題や取組を踏まえ、特別支援学級における指導の在り方についての研究成果を研究報告会で発表した。

令和 5・6 年度は、聾学校が研究推進校となるので、聴覚障害の児童生徒を対象とした研究実践の中間報告をした。

6 教育相談センター事業

教育相談センターでは、来所面接及び電話による教育相談、教職員の教育相談に関する研究・研修、不登校児童生徒への支援として市内6カ所のゆうゆう広場の運営及び不登校家庭訪問相談事業を行った。そのほか、スクールカウンセラー配置事業、学校巡回カウンセラー派遣事業による相談活動を行った。また、不登校対策連絡会議、不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会・進路情報説明会を開催した。令和5年度の各事業の状況は次のとおりである。

1 教育相談事業の実施状況

(1) 来所面接相談の実施状況

① 来所面接相談件数

表1は令和5年度の来所面接相談（教職員の相談は除く）の状況である。教育相談件数393件のうち262件が令和6年度に継続されることになった。

〔表1-1 令和5年度 来所面接相談件数と終結件数〕

	相談件数	終結件数	令和6年度への継続件数
継続	307	120	187
新規	86	11	75
合計	393	131	262

〔表1-2 表1-1より取り出した不登校・いじめ絡みに関する来所面接相談件数と終結件数（再掲）〕

		相談件数	終結件数	令和6年度への継続件数
不登校	継続	225	87	138
	新規	70	6	64
いじめ絡み	継続	21	10	11
	新規	2	0	2

② 来所面接相談総回数

表2は月別、対象別の来所面接相談総回数である。新規に申し込みがあった来所面接相談については2週間程度に担当者から連絡し、早期対応に努めている。また、ゆうゆう広場については、その特徴を理解した上で通級してもらうために、不登校児童生徒や保護者を対象に指導主事が事前相談を、カウンセラーが通級相談（通級時の初回相談）・継続相談を実施している。

〔表2 月別、対象別 来所面接相談総回数〕

		月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来 所 面 接 相 談	教 育 相 談 室	親	232	231	259	260	229	241	272	260	259	245	255	224	2967	
		子	168	159	148	180	159	164	175	177	190	173	186	160	2039	
	ゆ う ゆ う 広 場	事前相談	11	25	27	19	11	37	25	38	32	27	36	10	298	
		通級相談	4	12	14	12	1	11	18	16	17	16	15	17	153	
		継続相談	14	31	25	29	15	35	31	42	36	29	38	19	344	
合 計			429	458	473	500	415	488	521	533	534	490	530	430	5801	

③ 学校コンサルテーション

学校コンサルテーションとは、センターの職員と学校の教職員が、来所している子どもに対してよりよい支援ができるように話し合うことである。

〔表3 月別回数〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学校コンサルテーション	4	6	7	4	2	8	6	16	7	1	4	7	72

④ 新規来所面接相談の相談内容

〔表4 新規来所面接相談の相談内容の内訳〕

	小学生	中学生	高校生	その他	合 計	相談件数に占める割合
知能・学業	0	2	0	0	2	2.32%
性格・行動	36	33	9	0	78	90.69%
進路・適性	0	0	0	0	0	0.00%
身体・神経	0	1	0	0	1	1.16%
その他	1	4	0	0	5	5.81%
合計	37	40	9	0	86	
不登校（再掲）	31	32	7	0	70	81.39%
いじめ絡み（再掲）	1	0	1	0	2	2.32%

(2) 電話による教育相談の実施状況

電話相談は気軽に相談できる手段としてだけでなく、電話相談から来所相談へとつなげる役割も果たしている。今年度も保護者からの相談が多くあった。

① 電話相談件数及びその内容（午前9時～午後6時）

〔表5 電話相談 相談件数及びその内容と内訳〕

	就学前		小学生		中学生		高校生		その他	合計			合計
	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人		保護者	本人	他	
知能学業	4	0	16	0	5	0	0	0	0	25	0	14	39
不登校	0	0	27	0	33	0	12	1	1	72	1	9	82
いじめ	0	0	4	0	1	0	0	1	0	5	1	0	6
友人関係	2	0	14	0	4	0	0	0	0	20	0	0	20
性格行動	0	0	10	0	3	3	2	1	0	15	4	10	29
進路適正	52	0	17	0	17	0	7	0	1	93	0	11	104
身体神経	1	0	4	0	0	0	0	0	0	5	0	4	9
教育一般	7	0	56	3	35	3	11	3	0	109	9	15	133
その他	1	3	1	0	0	1	0	1	4	2	5	58	65
合計	67	3	149	3	98	7	32	7	6	346	20	121	487

② 24時間子供SOS電話相談の件数

いじめ問題等、心配なこと、困っていることで悩む子どもや保護者がいつでも相談できるよう、夜間を含めた24時間相談できる体制で取り組んだ。

〔表6 24時間子供SOS電話相談 相談件数〕

	受付時間	相談者					計
		小学生	中学生	高校生	保護者	その他	
相談 件数	8:45 ～ 17:00	23	71	12	67	101	274
	17:00 ～ 8:45	8	19	14	77	12	130
計		31	90	26	144	113	404
いじめ絡み（再掲）		2	1	3	11	0	17

2 研究・研修の状況

(1) 研 究

カウンセラー研究員による研究

生徒理解のための多面的・多角的な教育相談の一考察

ー児童生徒指導ハンドブック 2023 を活用した教育相談活動の実践ー

(2) 研 修

支援教育コーディネーター研修（836研修）全7回（集合7回） 延べ325名参加

希望研修（312・313・314・315・316研修）全5講座（集合4講座、ハイブリッド1講座）延べ221名参加

リクエスト研修（600研修）5回実施 延べ185名参加

不登校・登校支援・教育相談・アンガーマネジメント

その他

① 新規採用教員研修での教育相談研修

② サポーター研修会「子どもの理解と支援～教育相談的な視点から～」

③ 専科教員研修「児童理解」

3 「不登校」家庭訪問相談事業

家に引きこもりがちな不登校児童生徒の保護者の要請を受けて、家庭に出向き相談活動を行っている。令和5年度は2名の家庭訪問相談員で実施した

〔表7-1 令和5年度 家庭訪問相談状況〕

	小学生	中学生	その他	合 計
家庭訪問回数	115	41	0	156
訪問以外回数	7	3	0	10
合 計	122	44	0	166

〔表7-2 令和5年度 実施後の状況〕

	小学生	中学生	その他	合 計
家庭訪問件数	20	14	0	34
学校復帰者数	5	1	0	6
好ましい変化	8	3	0	11

※ 復帰とは、学校へ週1回程度登校した状態をさす。

4 ゆうゆう広場の活動状況

ゆうゆう広場は6つの広場が設置されている。不登校の児童生徒が市内のどこからも通いやすい環境を整えられている。各ゆうゆう広場には、教育相談員が4名ずつ配置され活動にあたった。令和5年度は、11名のメンタルフレンドが、通級している子どもの活動の援助を週1回の割合で行った。

(1) 通級状況

〔表8-1 令和5年度 学年別、男女別 通級者数〕

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
男子	3	5	3	7	17	13	48	20	33	14	67	115
女子	2	6	9	12	17	12	58	28	31	20	79	137
合計	5	11	12	19	34	25	106	48	64	34	146	252

〔表8-2 令和5年度 行政区別、男女別 通級者数〕

	みゆき			さいわい			なかはら			たかつ			たま			あさお			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
川崎	2	6	8	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
幸	9	15	24	12	10	22	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47
中原	0	1	1	7	8	15	16	20	36	0	1	1	0	0	0	0	0	0	53
高津	0	0	0	0	1	1	7	5	12	17	9	26	0	0	0	0	0	0	39
宮前	0	0	0	0	0	0	1	1	2	8	12	20	1	0	1	0	1	1	24
多摩	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	3	5	7	11	18	3	2	5	29
麻生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	18	27	45	46
合計	11	22	33	22	21	43	26	26	52	27	25	52	8	12	20	21	30	51	251

※たかつ 女子1名 市外在住

〔表8-3 令和5年度 復帰者数〕

小学生	中学生	合計
47	46	93

※ 復帰とは、学校へ週1回以上登校した状態をさす。

〔表8-4 中学校3年生の進路状況〕

公立				私立 (サポート校を含む)			専門学校	就職	フリースクール	家事手伝い	留学	未定	合計
全日制	定時制	通信制	支援学校	全日制	定時制	通信制							
3	0	1	0	6	0	21	1	0	0	0	1	1	34

(2) 体験活動

ゆうゆう広場全体の取組として3年ぶりにサマーキャンプが行われ、今年度も親子ふれあい活動、その他広場ごとに講師を招いた各種の体験活動が行われた。

〔表8-5 令和5年度 全広場合同行事 参加者数〕

サマーキャンプ（8月1泊2日）	22名
親子ふれあい活動（10月）	69名
プラネタリウム見学（11月）	82名

5 スクールカウンセラー配置事業

市内52校の市立中学校と5校の市立高等学校に継続配置しているスクールカウンセラーは、生徒指導担当や養護教諭、支援教育コーディネーターをはじめとする教職員との連携を深めながら相談活動を行った。

〔表9 令和5年度 スクールカウンセラーによる相談内容別延べ人数〕

①不登校	②いじめ	③暴力行為	④虐待	⑤友人関係	⑥貧困	⑦非行・不良行為
10286	299	31	147	1830	4	217
⑧ヤングケアラー	⑨④⑥を除く 家族関係	⑩教職員との 関係	⑪心身の健康・ 保健	⑫学習・進路	⑬発達障害等	⑭その他の主訴
47	2014	371	4488	1527	2197	1123
						合計
						24581

- ・ スクールカウンセラー連絡会議・研修会開催日

4月5日（水） 10月16日（月） 2月13日（火） 計3回

6 学校巡回カウンセラー派遣事業

令和4年度より、学校巡回カウンセラー15名に増員し、市立小学校への月2回程度の定期派遣を開始し、加えて令和5年度は、特別支援学校へも定期派遣を開始した。定期派遣へ切り替えたことで相談件数は増加し、直接の相談以外にも心理の専門性を活かして活動し、児童生徒及び保護者、学校に対する支援の充実につながった。

令和4年度より、事件・事故等に対する緊急支援については、中学校・高等学校を担当するスクールカウンセラーが行っている。

〔表10 令和5年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談件数〕

	小学校	特別支援学校	計
対応件数	1,884	47	1,931
教員	8,676	246	8,940

〔表11 令和5年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談延べ人数〕

	保護者	児童生徒	計
小学校	3,880	2,896	6,776
特別支援学校	73	79	152
計	3,953	2,975	6,928

7 不登校対策連絡会議

令和5年度は、不登校対策にかかわる施設や関係機関の職員50名程度が集まり、年2回の不登校対策連絡会議を開催した。

実際に不登校児童生徒への支援に携わっている実務者同士が、お互いの相談支援の方法や強み等について確認し、顔の見える関係づくりを行った。

8 不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会

令和5年9月16日（土）総合教育センターにおいて、県教育委員会・フリースクール等と連携して「不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会」を実施した。

保護者や児童生徒など203名が来場し、194件の個別相談が行われた。

7 広報及び刊行物等

1 川崎市総合教育センター所報

[発行] 令和5年7月

[発行部数] 1,000部（A4判）

[主な記事] 第1号『【巻頭言】子ども一人ひとりが「育つ」学校に』

『カリキュラムセンター 事業・業務』

『情報・視聴覚センター 事業・業務』

『特別支援教育センター 事業・業務』

『教育相談センター 事業・業務』

『令和5年度 教育委員会研究推進校一覧』

[発行] 令和6年2月

[発行部数] 1,000部（A4判）

[主な記事] 第2号『【巻頭言】心の中のグラデーション』

『【特集】カリキュラムセンター 「川崎市学習状況調査」

『【特集】情報・視聴覚センター かわさきGIGAスクール構想』

『特別支援教育センター 支援を必要とする子どもの就学相談について』

『教育相談センター 不登校児童生徒への支援』

2 総合教育センター要覧 令和5年度

[発行] 令和5年11月

[発行部数] 100部（A4判）

[主な内容] 設立趣旨、沿革、特徴、組織・機構、事業内容

3 その他の刊行物

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
1	事業報告書	12月	A4	46	100
2	小学校「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成Ⅰ」	3月	電子	—	—
3	中学校「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成Ⅰ」	3月	電子	—	—
4	小・中学校「自主・自立」「共生・協働」を目指した教育課程編成のための資料 Ⅵ 総則	3月	電子	—	—
5	みんなで学ぼう みんなで語ろう (川崎市立高校定時制案内)	10月	A4	8	2,600

6	川崎市立高等学校教育実践の記録	3 月	電子	—	—
7	夢を育てよう	5 月	A 4	6	12, 000
8	研究紀要 第28号	4 月	A 4	195	450
9	研修案内	4 月	A 4	73	500
10	研修一覧	4 月	B 2	1	300
11	副読本かわさき 2 0 2 3	3 月	A 4	200	13, 500
12	初任者研修の手引き	4 月	A 4	53	460
13	はじめて教員になった人のために	4 月	A 4	112	800
14	初任者研修 研修ノート	4 月	A 4	59	800
15	初任者研修 宿泊研修のしおり	7 月	A 4	36	550
16	中堅教諭等資質向上研修 研修の手引き	4 月	A 4	31	650
17	中堅教諭等資質向上研修 研修ノート	4 月	A 4	22	650
18	川崎市立小学校学習状況調査報告書	9 月	A 4	144	430
19	川崎市立中学校学習状況調査報告書	2 月	A 4	338	200
20	保健体育学習指導の手引き	3 月	A 4	46	320
21	スクールカウンセラー配置事業報告書	5 月	A 4	104	135
22	川崎市適応指導教室 ゆうゆう広場の活動報告	11月	A 4	30	250
23	特別支援学校担任のためのハンドブック	3 月	A 4	49	362
24	5 分でわかる情報教育 Q & A	3 月	A 4	104	1, 700
25	小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き	9 月	A 4	40	3, 000

4 資料の収集・整備

収集	研究・研修用教育図書
	市内各学校の要覧、案内及び校内研究報告書
	市内小・中・高校の各研究会発行の紀要等
整備	市内小・中・高校の教科書

令和5年度 事業報告書

令和6年10月

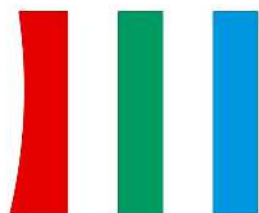
編集・発行 川崎市総合教育センター

所在地 川崎市高津区溝口6丁目9番3号

TEL 044-844-3600

FAX 044-844-3604

E-Mail KEI30201@to.keins.city.kawasaki.jp



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市